

取扱説明書及び部品表

Takakita

ミニローバレータ

RB-521RN
RB-521RN-OS



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**ミニロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	18
各部の名称とはたらき	19
トラクタへの装着	21
1. 装着の手順	21
2. ユニバーサルジョイントの取付け	21
3. コントロールボックスの接続	22
4. 日農工標準オートヒッチの取付け	22
運転に必要な装着の取扱い	24
1. 油圧装置の取扱い	24
2. コントロールボックスの取扱い	25
3. ネットの取付のしかた	27
4. 梱包圧の調整のしかた	28
5. ネット巻き数変更のしかた	28
6. テールランプの確認	29
作 業 方 法	30
1. 作業手順と要点	30
2. 移動・急旋回のときは	32
3. ピックアップドラムの高さ調整	32
4. 牧草の拾い上げ方法	33
5. 切断ワラの拾い上げ方法	33
6. 長ワラの拾い上げ方法	33
7. 飲み込みが悪いときは	34
8. P T O回転速度	35
9. 梱包作業方法のまとめ	35
10. 傾斜地での作業	35
作業前の点検について	36
簡単な手入れと処置	36
1. 油圧パッケージチェンの張り調整	37
2. 駆動チェンの張り調整(前・後)	37
3. ピックアップチェンの張り調整	37
4. 油圧パッケージの点検	37
5. シェアボルトの交換	38
6. ローラの掃除	39
7. タイヤの点検・修理	40
8. 各部への給油	40
9. (長期)格納時の手入れ	40
10. センサの調整	41
11. ネットブレーキ部の交換	42
12. ブザー音量の調節の仕方	42
不 調 診 断	43
付 表	44
1. 主要諸元	44
2. 主な消耗部品	44
3. 配線図	45

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

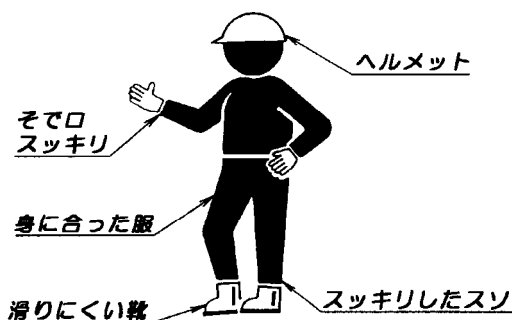
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力と装着方法

型 式	馬力 kW(PS)	装着方法
RB-521RN	12.5~22.1 (17~30)	3点リンク直装式 (カテゴリ I)
RB-521RN-OS		日農工標準 オート Hitch

● 電源用バッテリー : DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

3点リンケージに装着して持ち上げたときに、総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。

もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保してください。できなければ装着しないでください。

(5) バランスウェイトの取付け

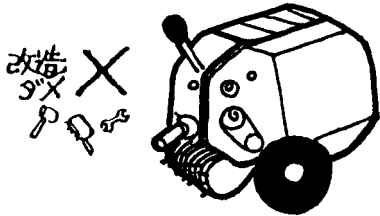
トラクタのバランスウェイトは指定した部分に指定したウェイト以外は取付けしないでください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は稲ワラ、麦ワラ、牧草の拾い上げ梱包作業を目的とした機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業できるようにしてください。

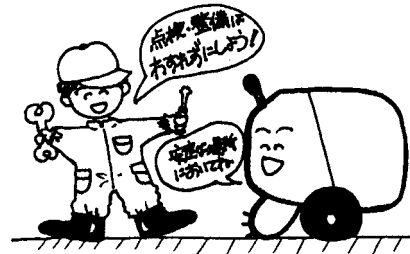


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でPTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいに維持してください。



⚠ 安全に作業するために

(6) 排気ガスには十分注意

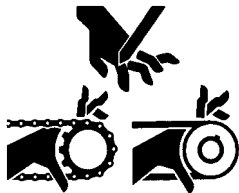
屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



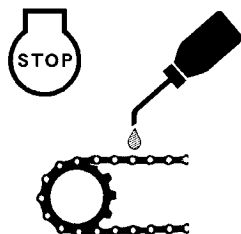
(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

注意

各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部

品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

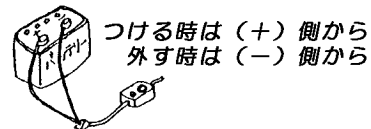
(9) コントロールボックスの電源脱・着

トラクタのバッテリーより電源を取ります。その取付け方法は、+側から行ってください。

外す時は、一側から行ってください。

逆にすると火花が飛び危険です。

(詳細は本文の『コントロールボックスの接続』を参照してください。)



(10) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

コントロールボックスはトラクタから取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



(11) タイヤの点検・修理をするときは

①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

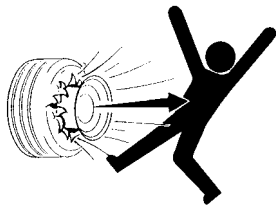
②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

⚠ 安全に作業するために

- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。

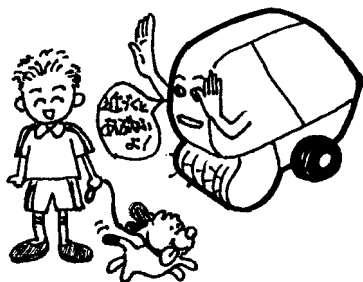


- ◆本機に装着しているタイヤの
サイズと規定空気圧
- タイヤサイズ
16×6.50-8 4PR
- 空気圧
1.96kPa以下 (2.0kg/cm²以下)

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



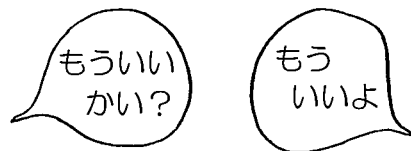
(2) エンジンを始動するときは

P T Oを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確認してからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確認合いながら作業してください。



- (4) シェアボルトの交換、ネットの交換、草の巻きつきを取除くときは
P T Oを切り、エンジンを必ず停止してから行ってください。



(5) 回転中のユニバーサルジョイント

には触れない

回転しているユニバーサルジョイントに手や足で絶対に触れないでください。
巻き込まれて傷害を負うことがあります。



(6) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

⚠ 安全に作業するために

(7) エンジンは低速回転で

高速回転にすると、機械が振動し大変危険です。

梱包するときは、P T Oの回転を必ず $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以下にしてください。

(8) 傾斜地で作業するときは

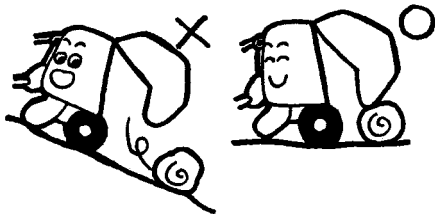
次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

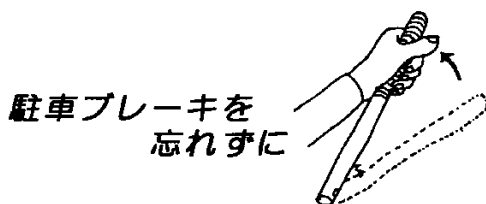
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

- ③傾斜地でのボール放出は、谷側にボールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



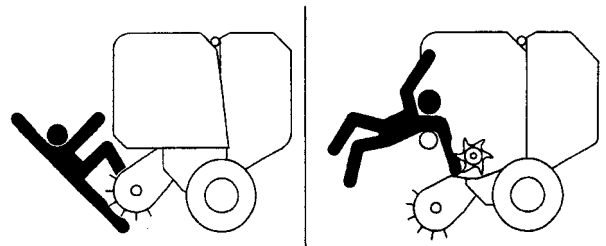
(9) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停止し、P T Oを切りエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、本作業機側に車止めをしてください。



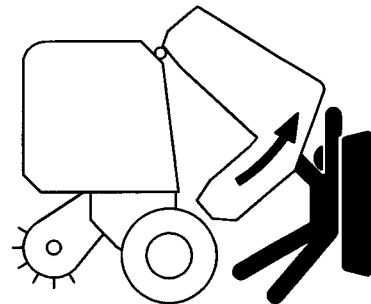
(10) 回転中のピックアップドラムやローラには触れない

回転しているピックアップドラムやローラに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ、重傷を負うことがあります。



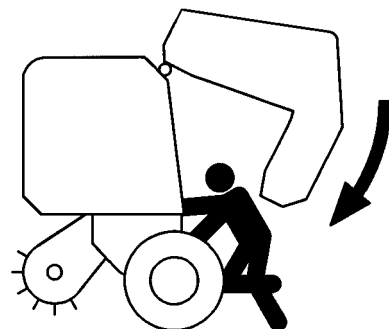
(11) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



(12) チャンバーを開けて作業するときは

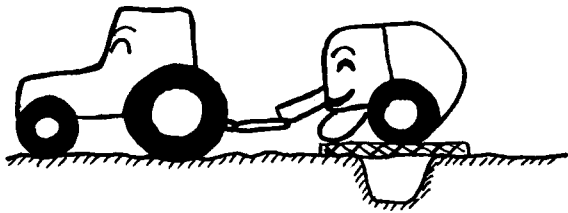
チャンバーの上にあるセフティフックをかけ、P T Oを切りエンジンを停止してから行ってください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(13) 溝や畦を横断したり

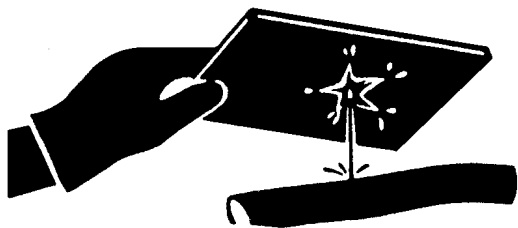
軟弱な所を通るときは
スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(14) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に降ろし、PTOを切り、
エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。

(15) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。
- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことはやめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



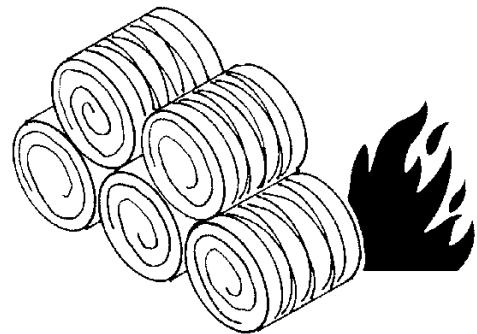
⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、重度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



(16) 火災に注意

乾燥不十分な牧草をバールに成形すると、バール内部からの発火により火災が発生する危険があります。

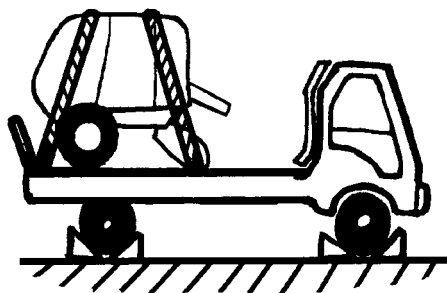
バール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。



⚠ 安全に作業するために

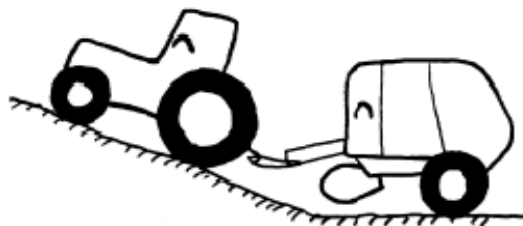
4. 輸送するときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください



- (2) ピックアップを移動位置にする

特にほ場から出入りする場合は、ピックアップの破損事故が起こりやすいのでピックアップは最上げの位置で移動位置にしてください。



⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

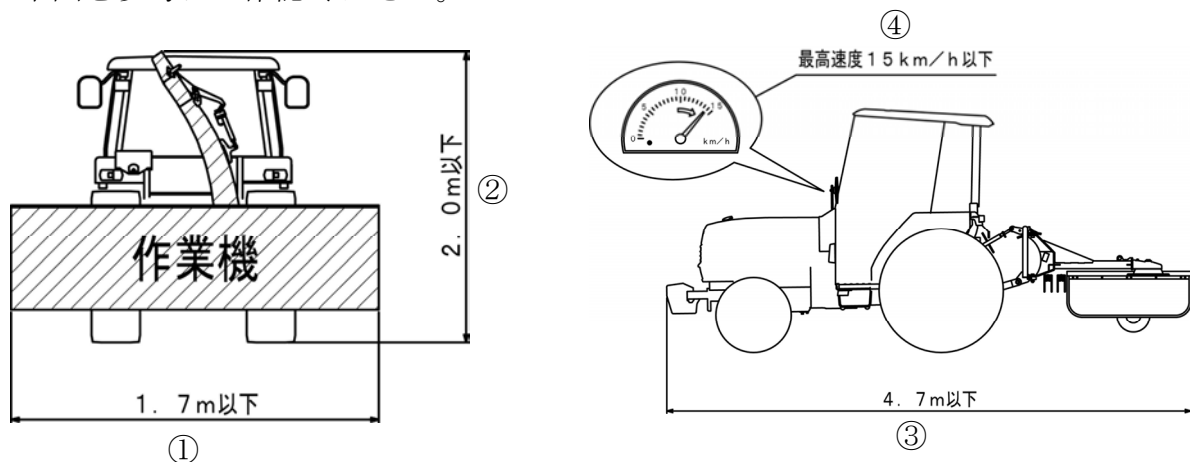
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、直装タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

1. 必要な運転免許証について

トラクタ単体の場合、道路運送車両の技術基準(保安基準)の適合性を確保できる農耕トラクタであれば小型特殊免許/普通免許および大型特殊免許(農耕用に限るも、含む)で運行可能ですが、トラクタに作業機を装着した場合の寸法が下表①~④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。

- | | |
|----------|------------------------------|
| ① 幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレーム2.8m以下) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



2. 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

	農業用小型特殊自動車	農業用大型特殊自動車
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>すべて超えない</u> 場合	公示一括緩和を適用した車両として申請や登録は必要ありません。	全国の運輸支局等で検査登録が必要です。
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>いずれかを超える</u> 場合	・全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 ・道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。	・検査登録が必要です。 ・全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 ・道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

3. 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート(1)～(4)を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

(1) 作業機最外側からトラクタの灯火器類までの距離

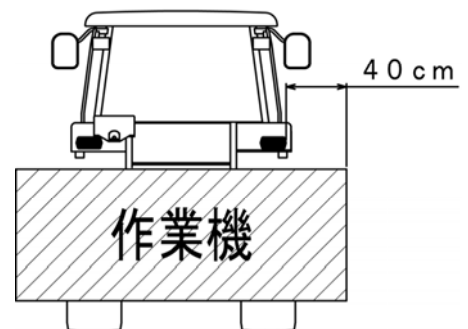
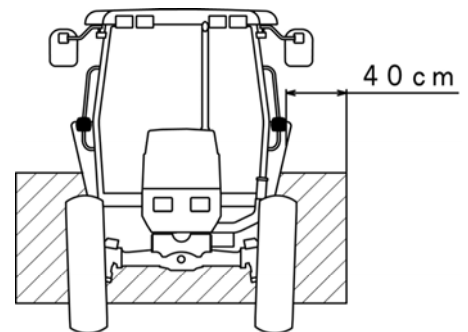
トラクタの後退灯以外の灯火器の取付け位置が
全て作業機の最外側から40cm以内にある。

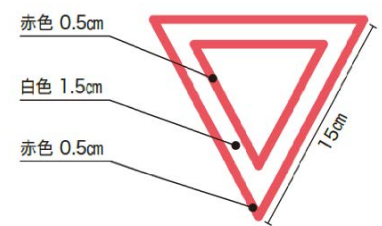
YES

NO

(1)での追加装備
は必要ありません。

前面:A.白色反射器
後面:B.赤色反射器
C.制限標識
を取付ける必要があります。

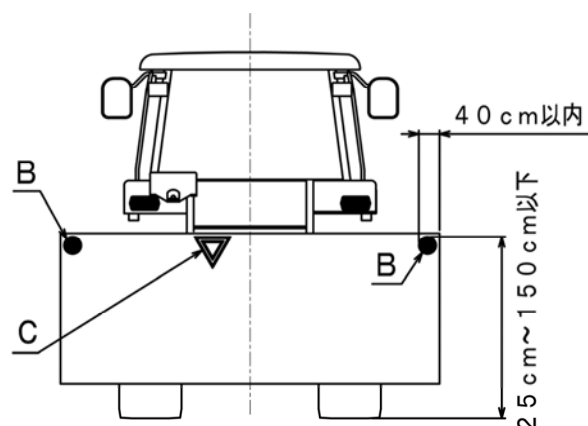
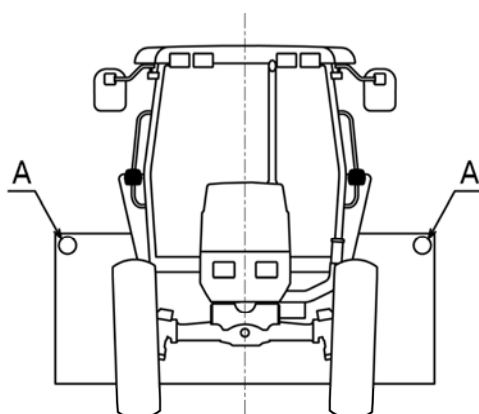


A.白色反射器	B.赤色反射器	C.制限標識
		 赤色 0.5cm 白色 1.5cm 赤色 0.5cm

装備の取付け位置

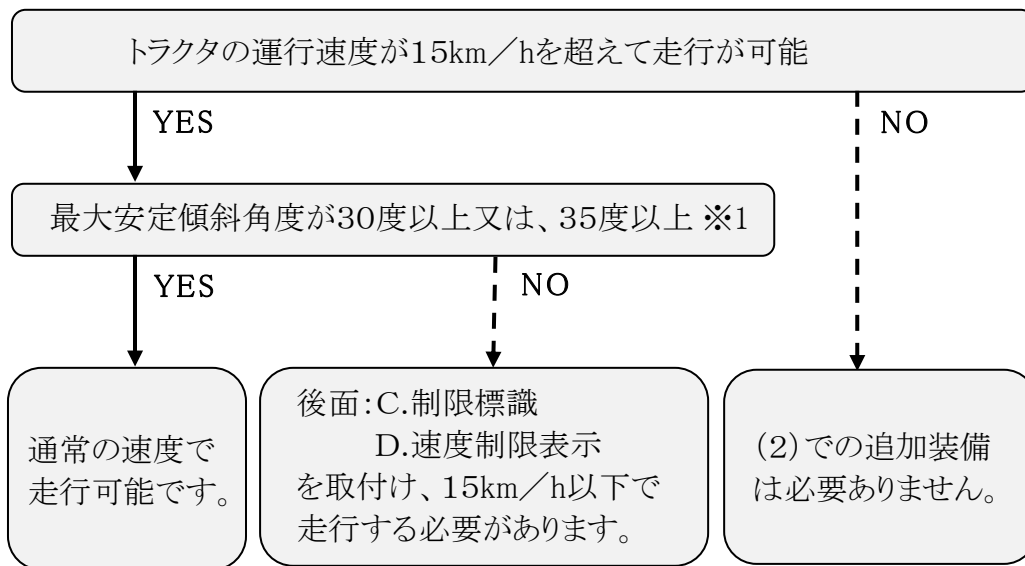
道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類取付け位置が定められています。A・Bについては前方・後方から見て、作業機の最外側から40cm以内、高さが地上25cm以上150cm以下の場所に左右対称になるように取付けてください。Cは後方から確認できる位置に取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

(2) トラクタの運行速度



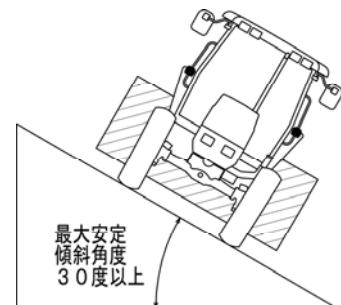
※1 運行速度が15km/hに制限されないトラクタと作業機との組合わせについては日農工のホームページ(<http://www.jfmma.or.jp>)をご覧ください。
最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常ので速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

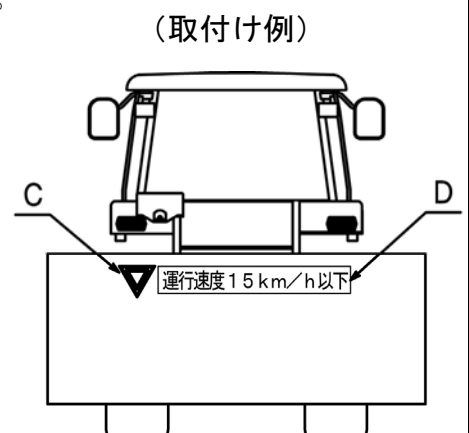
- ・ 運行速度15km/h以下での道路走行
- ・ 道路走行をする際に、Cを作業機に表示、
Dを作業機・運転席に表示
を行う必要があります。



装備の取付け位置

C・Dは後方から確認できる位置に取付けてください。
Dは運転席にも表示する必要があります。

C.制限標識	D.速度制限表示



⚠ 安全に作業するために

(3) トラクタのコンビネーションランプ（尾灯、制動灯、方向指示器）、後退灯の視認性

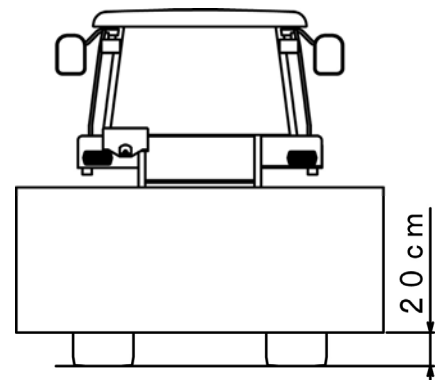
作業機の機体最下部を地面から約20cm上げた状態で後方から確認し、トラクタのコンビネーションランプと後退灯が視認できる。

YES

(3)での追加
装備は必要
ありません。

NO

・後退灯のみ視認できない場合は
可能な限りトラクタ上で移設してください。
・コンビネーションランプ、後退灯が視認
できない場合は作業機に取付ける必要
があります。
※取付けは販売店に相談してください。



装備の取付け位置

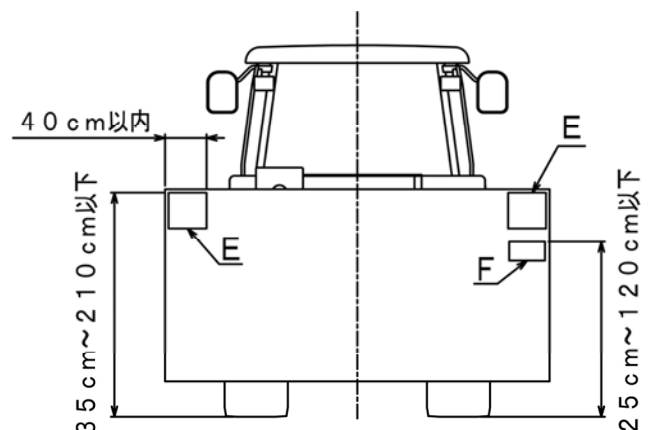
道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

- ・尾灯（テールランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- ・制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- ・方向指示器（ウインカー） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
- ・後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25cm以上120cm以下

コンビネーションランプは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。

後退灯は後方から確認（視認）できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

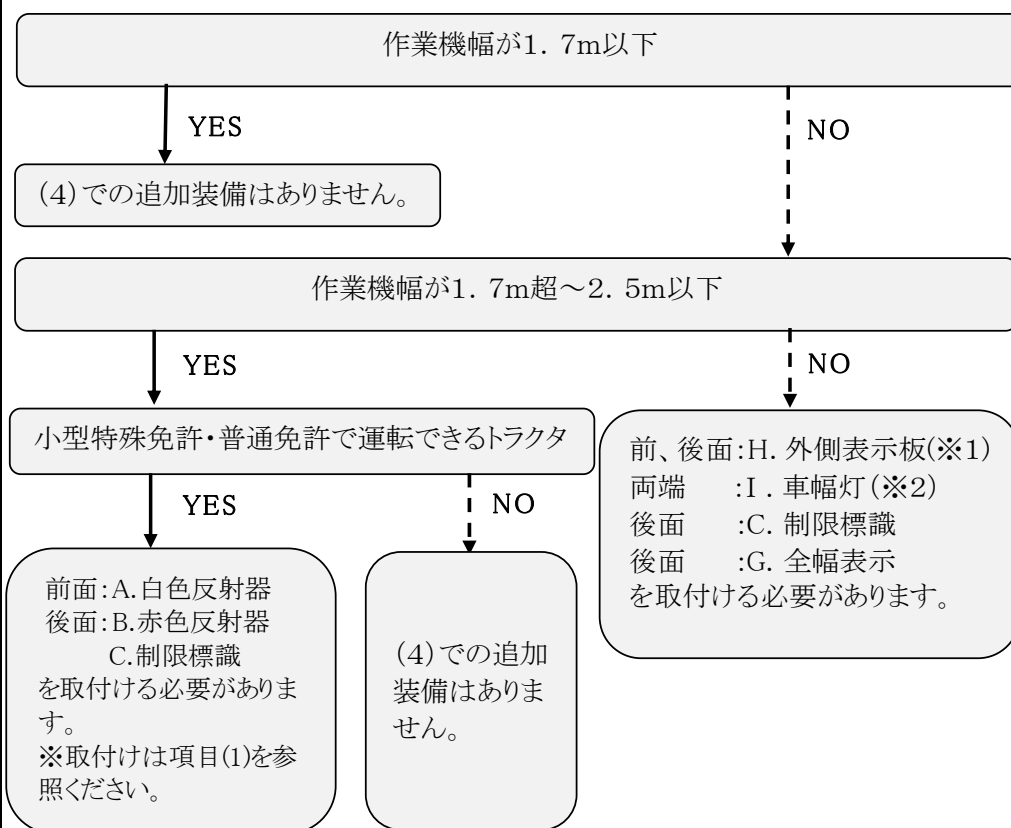
（取付け例）



※ トラクタから灯火装置の信号が出ているか確認後に公道走行を行ってください。

⚠ 安全に作業するために

(4) 作業機装着時の全幅



※1 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以上ある場合、反射器が必要になります。しかし、弊社の外側表示板は反射材を含んでいるため、反射器は取付け不要です。

※2 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以内の場合、取付けは不要です。

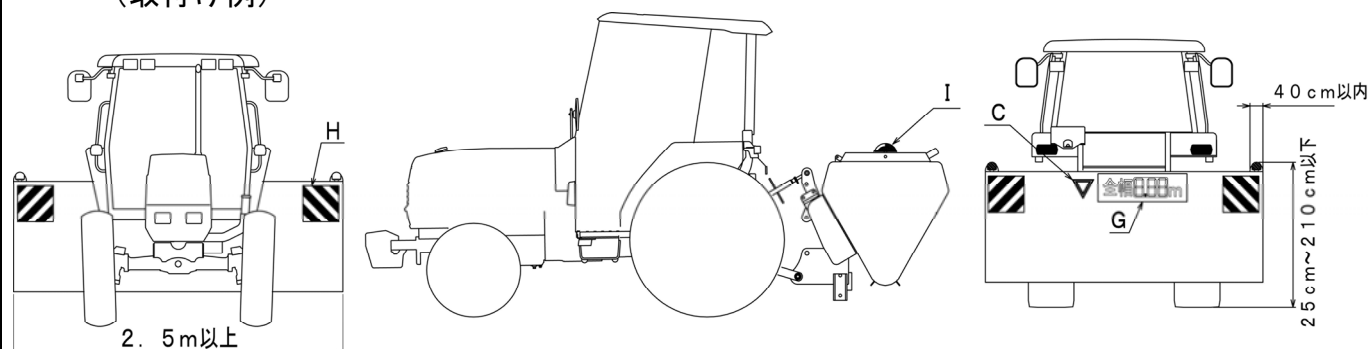
装備の取付け位置

C・Gは後方から見やすい位置に取付けてください。

Hは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

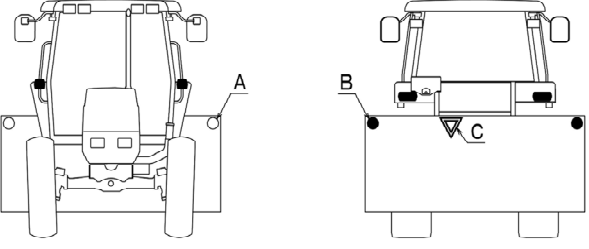
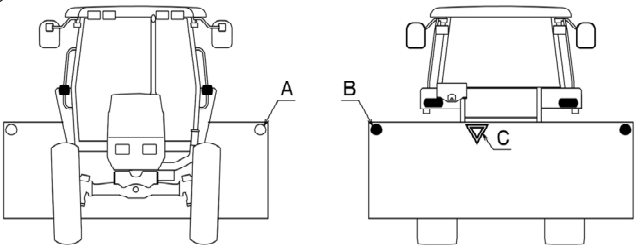
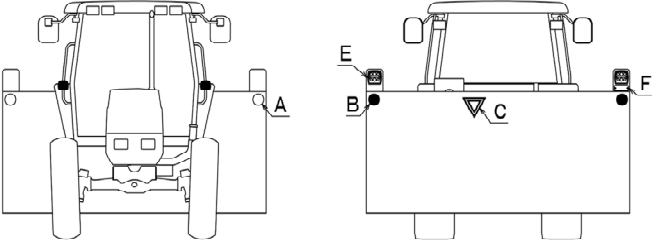
Iは後方から確認(視認)できる位置で、最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下に入るように取付けてください。また前方が白、後方が赤になるようにしてください。

(取付け例)

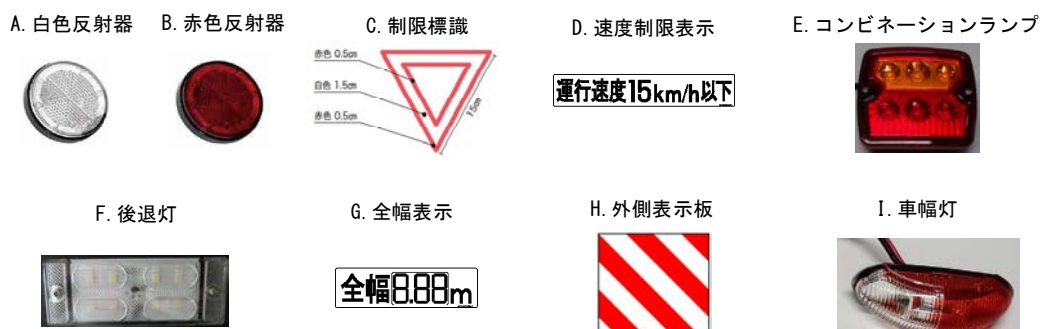


⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取付け例

			トラクタに作業機装着時の寸法が、全幅2.5m、全高3.8m、全長12m以下の場合	
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	①	取付け部品無し	
		②		
		③		
	トラクタのコンビネーションランプ・後退灯を視認できる場合	④	例) ③に灯火器類を取付け 	
トラクタのコンビネーションランプ・後退灯を視認できない場合				

灯火器・ステッカー



⚠ 安全に作業するために

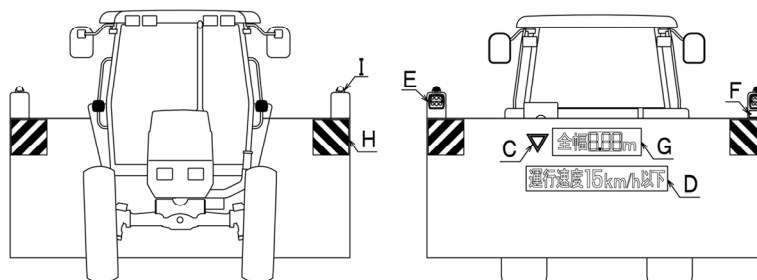
灯火器類・ステッカー取り付け例

			トラクタに作業機装着時の全幅が2.5mを超える場合
灯火器類の 視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタのコンビネーションランプ・後退灯を <u>視認できる</u> 場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	⑤
		作業機の最外側から40cm以上離れている 灯火器がある場合	⑥
	トラクタのコンビネーションランプ・後退灯を <u>視認できない</u> 場合		⑦ 例) ⑥に灯火器類を取付け

※ 全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

P.10「(2)トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

例) ⑦に速度制限表示を追加

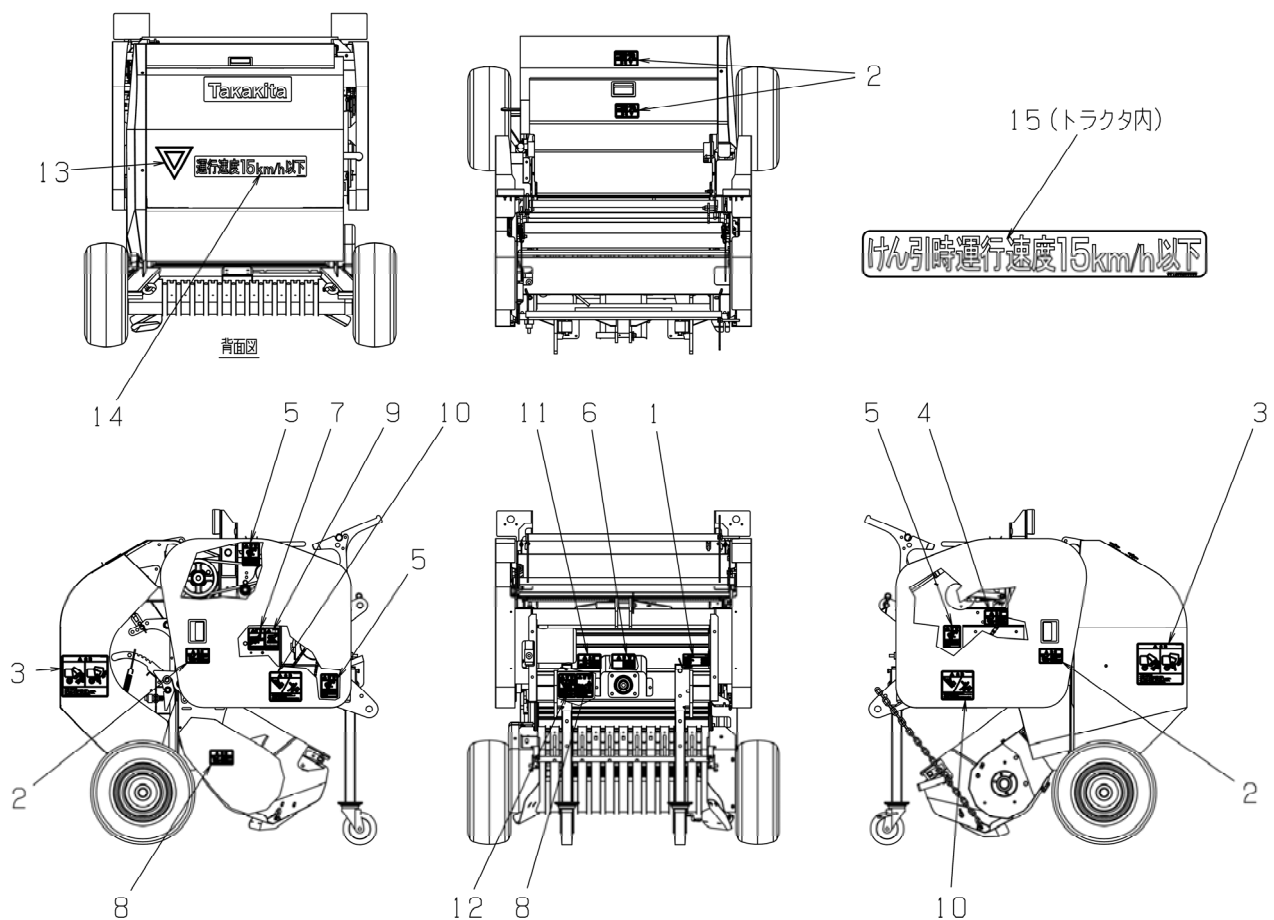


詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

⚠ 安全に作業するために

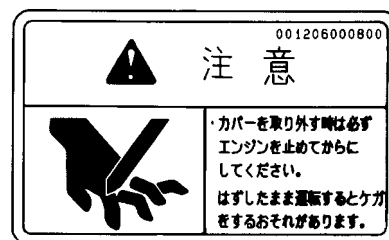
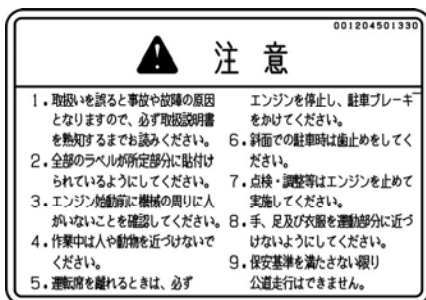
6. 警告ラベルの貼付け位置

●RB-521RN



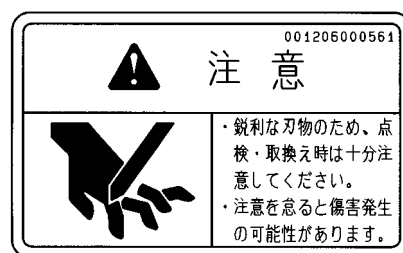
①部品コード 001204501330

②部品コード 001206000800



③部品コード 001206001350

④部品コード 001206000561

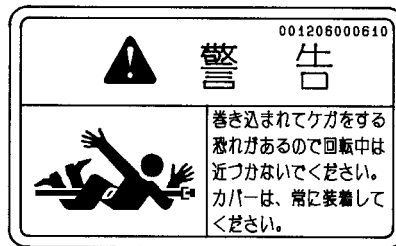


⚠ 安全に作業するために

⑤部品コード 001306000080



⑥部品コード 001206000610



⑦部品コード 001306000190



⑧部品コード 001206000210



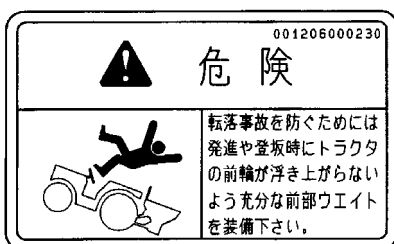
⑨部品コード 001206001080



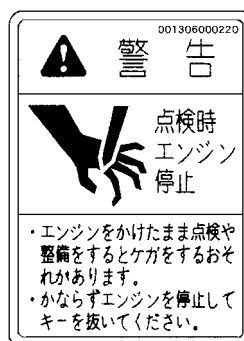
⑩部品コード 001206002150



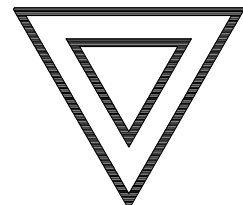
⑪部品コード 001206000230



⑫部品コード 001306000220



⑬部品コード 001206002260



ユニバーサルジョイント

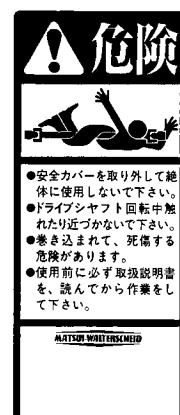
部品コード 001306951010

⑭部品コード 001205200010

運行速度15km/h以下

⑮部品コード 001205200030

運行速度15km/h以下



安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

本製品の使用目的とサービスについて

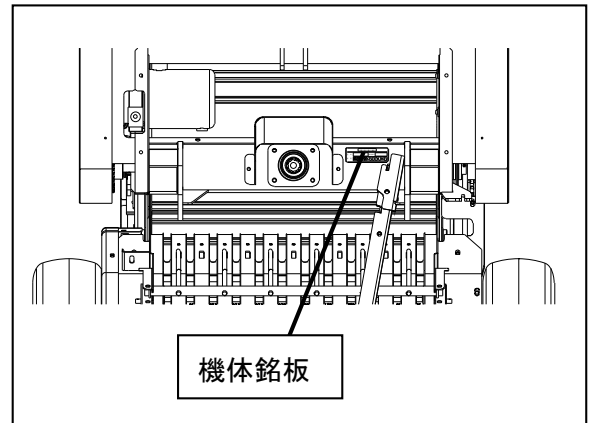
本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、麦ワラ、牧草等のロールベールを梱包する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

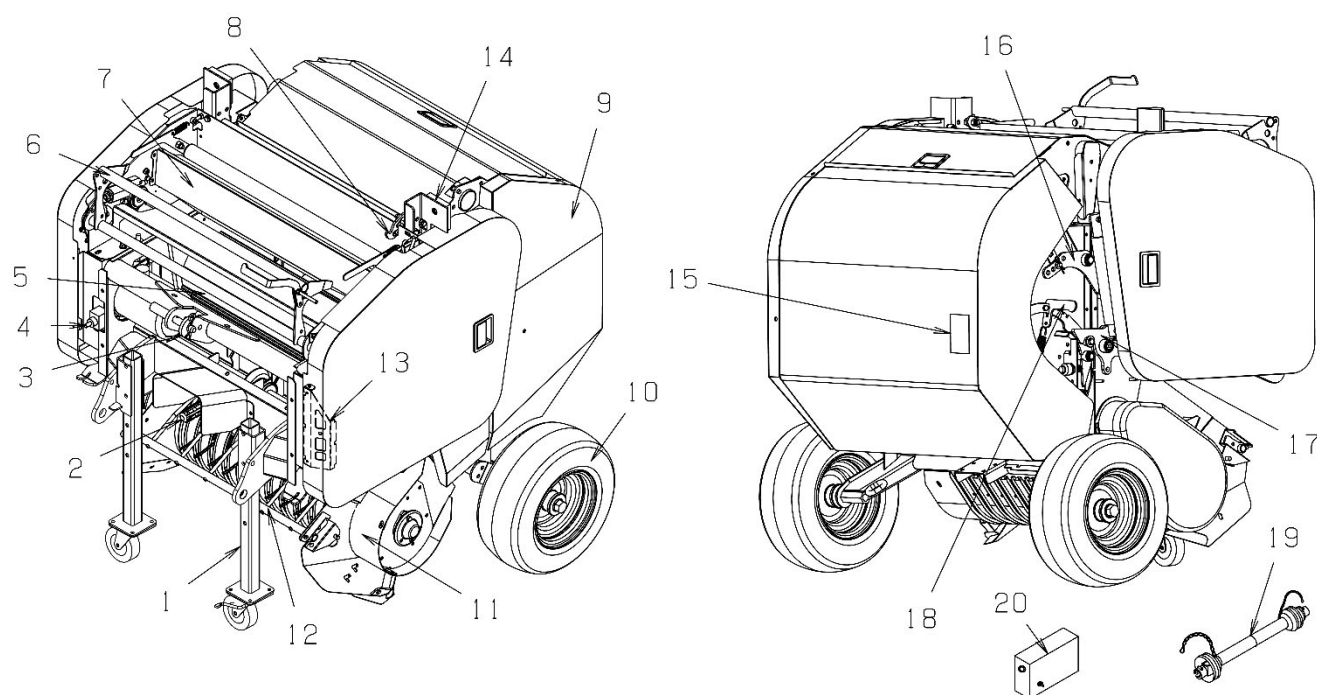
- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

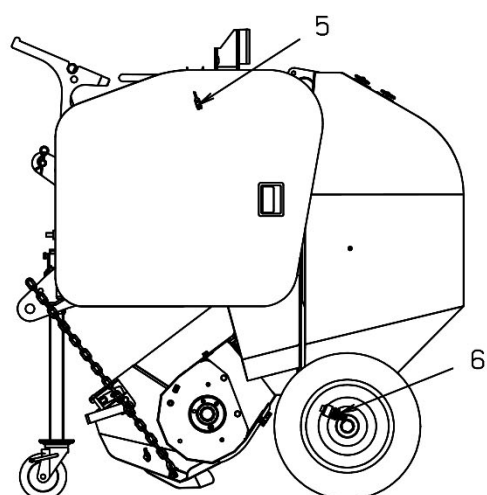
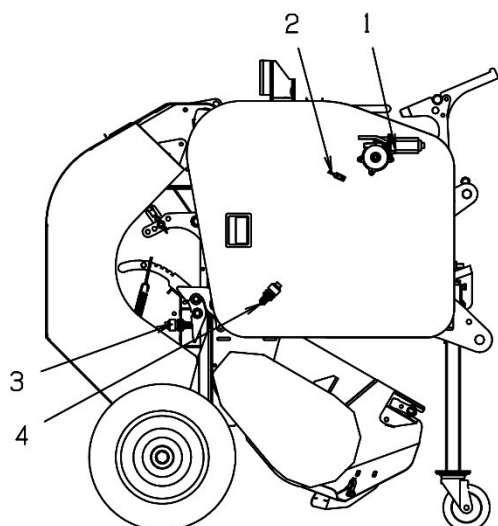
品 名	ミニロールベアラ
型 式	R B - 5 2 1 R N
機 体 No. (S E R - N o.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	スタンド	機体を支持します。
2	入力軸	ロールベアに動力を伝えます。
3	3Pマスト	カテゴリ I 用のマストです。
4	油圧ポンプ	リヤケース開閉シリンダにオイルを供給します。
5	ローラ	ベールを作成します。
6	ネットブレーキ	ネットにブレーキをかけます。
7	ネット装置	ベールにネットを巻き付けます。
8	セフティフック	リヤチャンバーを開けた状態を保持します。
9	リヤチャンバー	開いてベールを放出します。
10	タイヤ	作業時に機体を支えます。
11	ピックアップ	材料を拾い上げます。
12	プレスバー	材料を押え成型室への送りをスムーズにします。
13	シェアボルトホルダー	予備のシェアボルトを収納できます。
14	コンビネーションランプ(左右)	ウインカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ
15	後退灯	後退するときに点灯するランプ
16	調整金具2	作成するベールの重さを調整します。
17	ロック金具	リヤケースが開かないように固定します。
18	調整金具1	作成するベールの固さを調整します。
19	ユニバーサルジョイント	トラクタの動力を本機に伝えます。
20	コントロールボックス	本機の操作を手元で行います。

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	繰出しモータ	カムを回転させ、ネットを繰出します。
2	カムセンサ	カムの位置を制御します。
3	感知スイッチ	チャンバー内の圧力が一定以上になると満了感知します。
4	チャンバー閉スイッチ	チャンバーが閉じきったことを検出します。
5	ネットカウントセンサ	ネット巻数をカウントします。
6	キッカースイッチ	ボールが放出されたことを検出します。

トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に取付けてください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります

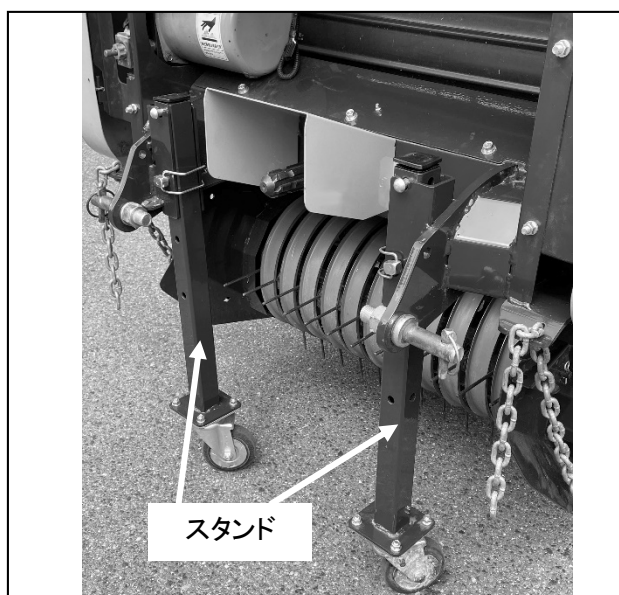
1. 装着の手順

◆トラクタに取付ける

左ローリンク、右ローリンク、トップリンクの順序で取付けて下さい。

◆機体を持ち上げる

機体が浮いたらスタンドを取外します。



◆チェックチェーンで横振れ調整

運転時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心にローリンクが左右に2～3cm程度の振れになるよう調整してください。

◆トップリンクの長さ調整

機体が水平となるように、トップリンクの長さを調整してください。

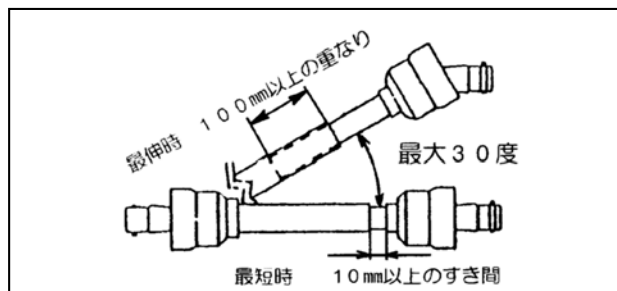
2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタPTO軸に確実に取付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、ローリンクによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さを確認し、長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけてしっかりと固定してください。

警告

カバーの回り止めは必ず行ってください。これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

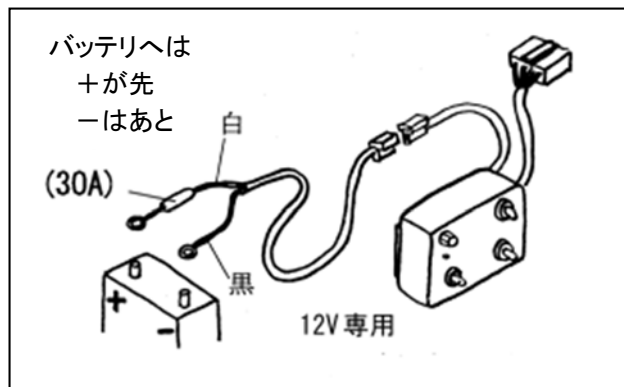
トラクタへの装着

3. コントロールボックスの接続

◆接続できるバッテリーの電圧は

12Vです

24Vのバッテリーに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。



◆ (+)、(-) の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの(+)へ接続

黒色線はバッテリーの(-)へ接続

注意

(+)、(-)の接続を間違えると、コントロールボックスの電源ランプは点灯しません。

警告

接続の順序は、(+)側から行ってください。

また、取り外すときは(-)側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石を装着しています。操作のしやすいように、トラクタの運転席右側の金属製フェンダー等に吸着させて取り付けてください。

◆配線の接続

①トラクタのバッテリーより取り出した、電源側コネクタにコントロールボックスを接続して、電源ランプが点灯していることを確認してください。

②次に本機側ハーネス長さは、3点リンケージによる上昇・下降の動きに対応できるように、余裕を保った状態で本機側コネクタに接続してください。

配線が作業の邪魔にならないよう、また旋回時等に引っ掛からないようにトラクタに固定してください。

◆作業終了後は取り外して屋内に保管

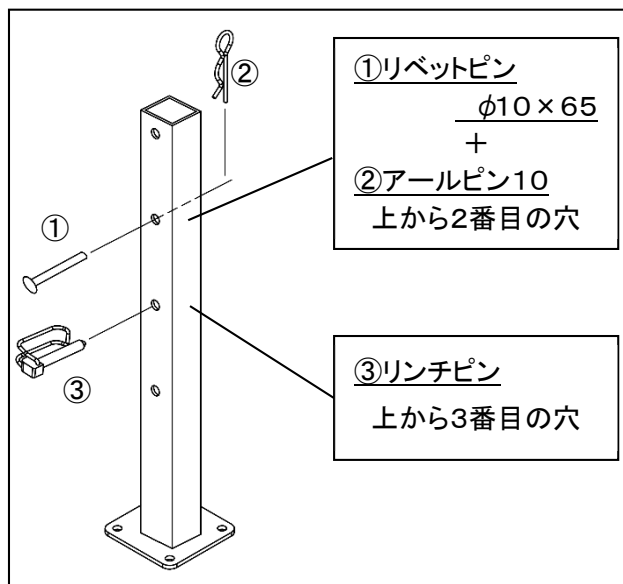
作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

4. 日農工標準オートヒッチの取付け

(RB-521RN-0Sのみ)

◆組付け手順

[1] スタンドは次のように組付けます。

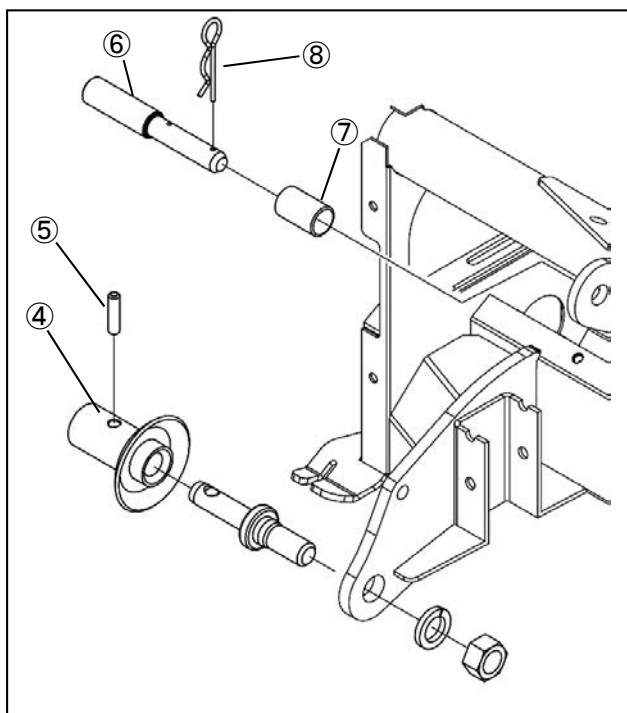


機体の前傾が足りない場合はリベットピンとリンチピンの差し込み穴を1つつ下にならずらしての固定も可能です。その際はピックアップを地面に接触しない高さになるよう調整してください。(P.32参照)

トラクタへの装着

[2] ロワーリンクピンに④ガイドカラーを挿入し、⑤ロールピン(10×36)を打ち込み固定します。

[3] 本機のトップリンク部の穴に⑥トップリンクピン、⑦トップリンクカラー、⑧アールピンを組付けてください。



[4] 上記[1]～[3]で日農工標準オートヒッチ用部品の組付けは完了です。

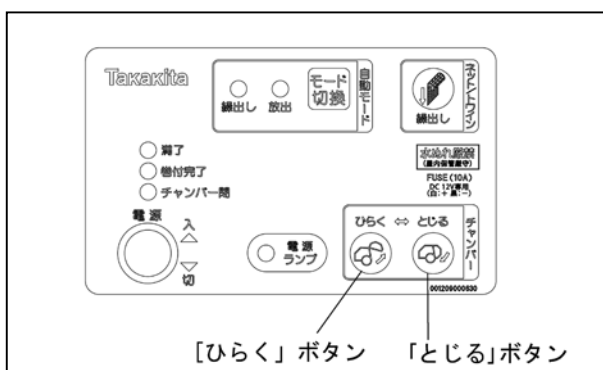
運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置の取扱い

◆チャンバー開・閉の油圧装置です
本機に装備している油圧装置は、チャンバー開閉用の油圧装置で、油圧ポンプ・タンク・バルブ一体型の油圧パッケージを装備しています。

◆PTOが回転している間は作動します
油圧パッケージは、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉操作のしかた



コントロールボックスの電源スイッチを入れて、PTOを回転させます。

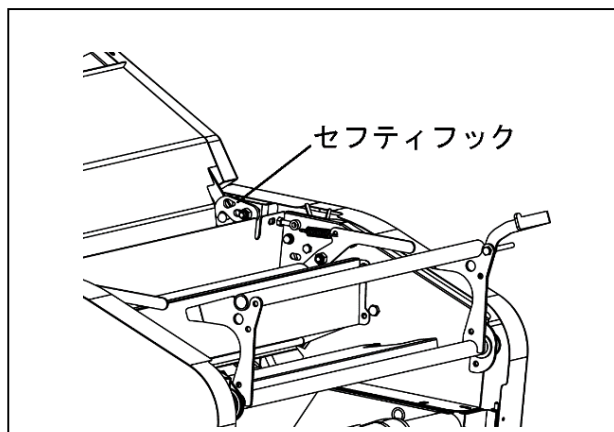
「ひらく」ボタンを押している間チャンバーが開き、「とじる」ボタンを押している間チャンバーが閉じます。チャンバーが開いている間、断続的にブザーが鳴ります。

◆チャンバーを開けたままで

ロックするときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、必ず次図のように行ってください。

- ①チャンバーを開けます。
- ②セフティフックをリヤチャンバー側に倒します。
- ③チャンバー「とじる」ボタンを押し、セフティフックがリベットピンにかかる位置までチャンバーを下げます。



⚠ 注意

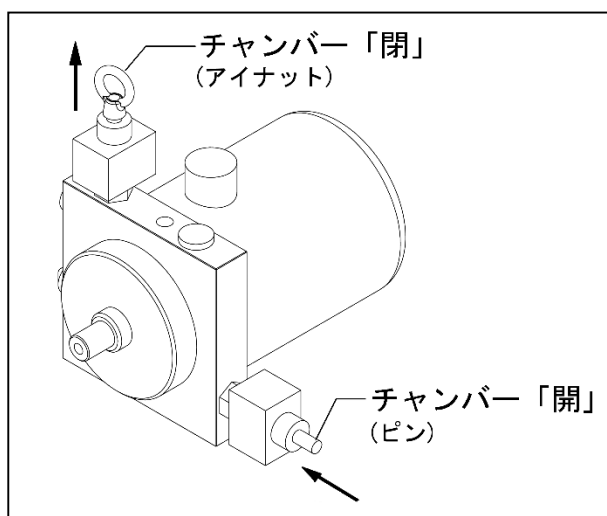
チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。これを怠ると重大な障害事故につながるおそれがあります。

◆電装がトラブルを起こした場合

コントロールボックスの電源スイッチを切りPTOをエンジンアイドリングで回転させてください。

チャンバーを開くときは、ピンを押してください。

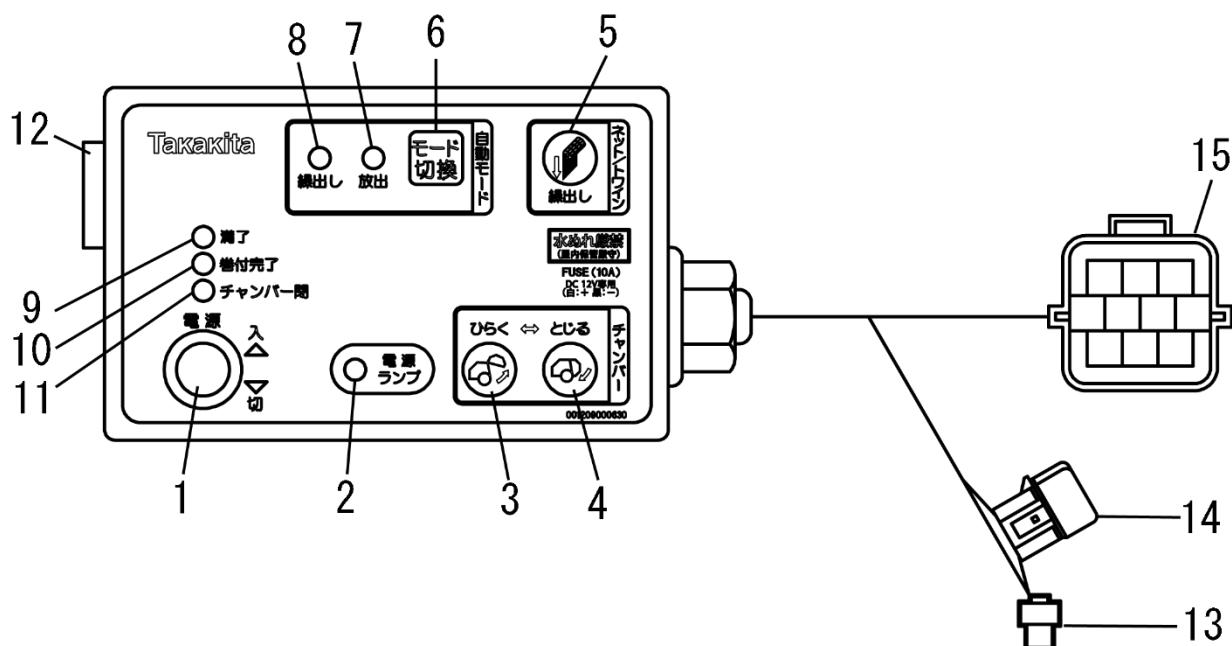
チャンバーを閉じるときは、アイナットを引いてください。



運転に必要な装置の取扱い

2. コントロールボックスの取扱い

◆コントロールボックスの説明



番号	名 称	は た ら き
1	電源入/切スイッチ	スイッチを上げると電源が入り、下げると電源が切れます。
2	電源ランプ	電源が入っているときに点灯します。
3	チャンバーひらくボタン	押している間チャンバーが開きます。
4	チャンバーとじるボタン	押している間チャンバーが閉じます。
5	繰出しボタン	押すとネット／トワインを繰出します。
6	モード切換えボタン	押す度に、以下の順でモードを切換えます。 各モードの説明については次ページを参照ください。 手動→手動繰出し→手動放出→全自動の順番で切り換わります。
7	放出自動LED	作業中放出が自動で行われるモードにおいて点灯します。
8	繰出し自動LED	作業中繰出しが自動で行われるモードにおいて点灯します。
9	満了感知LED	満了感知後ネット巻付が完了するまで点灯します。
10	巻付完了LED	巻付完了後ベールが放出されるまで点灯します。
11	チャンバー閉LED	チャンバーが閉まっている時に点灯します。
12	電子ブザー	エラー、動作終了時などのタイミングで鳴ります。
13	電源コネクタ	外部から電源(12V)を受け取ります。
14	ブレードヒューズ	異常に高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。 (ヒューズ15A)
15	入出力用コネクタ	センサからの信号の受け取り、モータ、油圧ユニットへ出力をします。

運転に必要な装置の取扱い

◆作業モード

・モード切換え

ベール作業の作業形態に応じ4個のモードの内、最適なモードで作業してください。

モード	自動 LED の状態 ○:消灯●:点灯	
	繰出し	放出
手動	○	○
手動放出	●	○
手動繰出し	○	●
全自動	●	●

※各モードを使う場面

[1] 手動

ボタンで繰出し、放出を行いたい場合、もしくは不具合発生時。

[2] 手動放出

傾斜地で作業しており、巻付完了後その場で放出したくない場合。

[3] 手動繰出し

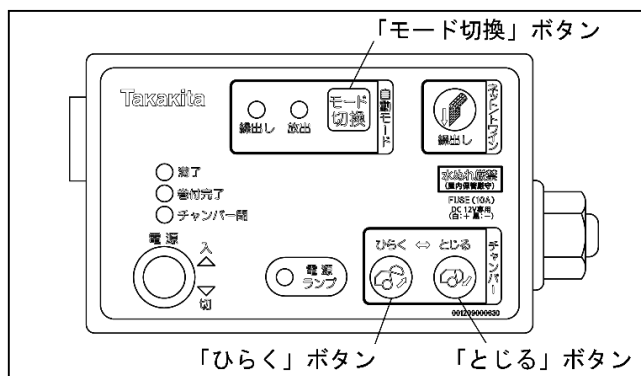
PTOがクラッチ連動のトラクタであり感知後、止まる際にクラッチを踏むとPTOも止まりブレーキを解除してもネットがベールに入っていない場合。

[4] 全自動

PTO独立の場合。

◆設定モード

電源入時、チャンバー「ひらく」ボタン、チャンバー「とじる」ボタン、モード切換えボタンを同時に1秒長押しすることで設定モードに入ることができます。



設定モードではトワイン⇔ネット、バックアップモード、繰出し延長モードのON/OFFの切替えを行えます。設定モードに入っている間は、巻付完了LEDが点灯しており、モード切換えボタンを押すたびにトワイン、ネットのプログラムを切替えます。どちらを選択しているかは繰出し自動LEDの状態からわかります。ネットの設定では電源「入」時電源LEDが2回点滅します。

モード	繰出し自動LED
ネット	ON
トワイン	OFF

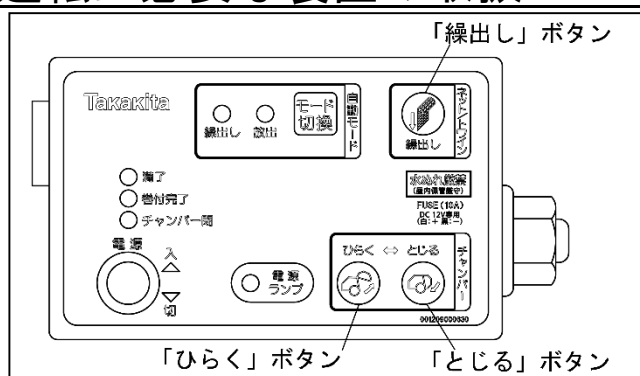
バックアップモードはカウントセンサ、カムセンサが故障した場合でも作業を可能にするためのものです。繰出しボタンを押すたびにバックアップモード、通常モードを切替えます。どちらの設定に入っているかは放出自動LEDの状態からわかります。設定が終わったら電源を「切」にしてください。

モード	放出自動LED
バックアップ ON	ON
バックアップ OFF	OFF

繰出し延長モードは、トワイン装置でベールとローラの間で滑りが発生し、トワインが引き込まれない場合にモータの繰出し時間を増やすためのものです。チャンバー「ひらく」ボタンを押すたびに繰出し延長モード、通常モードを切替えます。どちらの設定に入っているかは満了感知LEDの状態からわかります。設定が終わったら電源を「切」にしてください。

モード	満了感知LED
繰出し延長ON	ON
繰出し延長OFF	OFF

運転に必要な装置の取扱い



◆入出力チェックモード

電源「入」時、チャンバー「ひらく」ボタン、チャンバー「とじる」ボタン、繰出しボタンを同時に1秒長押しすることで入出力チェックモードに入ることができます。入出力チェックモードでは、各入力の状態が実際の動作、コントロールボックスのLEDの点灯、ブザー音で確認できます。確認が終わったら電源を「切」にしてください。

・入力チェック

確認したい箇所を反応させるとブザー音とともに次の動作をします。

確認箇所	動作
カムセンサ	繰出し自動LEDが点灯
感知スイッチ	満了感知LEDが点灯
チャンバー閉スイッチ	チャンバー閉LEDが点灯
ネットカウントセンサ	巻付完了LEDが点灯
キッカースイッチ	放出自動LEDが点灯

・出力チェック

確認したい箇所を反応させるとブザー音とともに次の動作をします。

確認箇所	動作
チャンバー「ひらく」ボタン	チャンバーが開く
チャンバー「とじる」ボタン	チャンバーが閉まる
繰出しボタン	ネット／トワインを繰出す
モード切替ボタン	電源LEDが点灯

◆エラー発生時のLEDの状態

エラーが発生すると断続音で警告し、エラーの種類に応じた箇所のLEDが点灯します。

点灯LED	異常の種類
繰出し自動LED	ネットのカムが回らない
巻付完了LED	巻付けが終わらない
放出自動LED	ベールが落ちない
チャンバー閉LED	チャンバーが閉まらない

◆作業終了時の収納

作業終了後は、電源コード側コネクタより切り離し、屋内で水濡れのないように保管してください。

3. ネットの取付けのしかた

◆ネットケースにセット

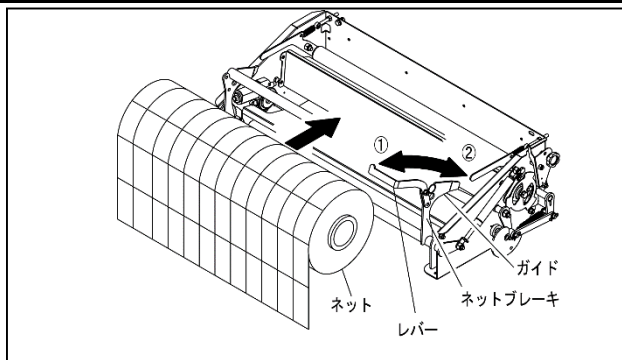
使用するネットは73cm幅です。
(部品コード 32118-9911-000)

注意

- ネットを通す場合は、ローラの下に切断用のナイフがありますので、手を切らないように特に注意してください。
- ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので、必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

- (1) 図に示すように、レバーを①の方向に倒し、ネットブレーキを解除してください。
- (2) ガイドの内側にネットの紙筒が入るように図の方向にネットを置いてください。
- (3) レバーを②の方向に倒し、ネットにブレーキをかけます。

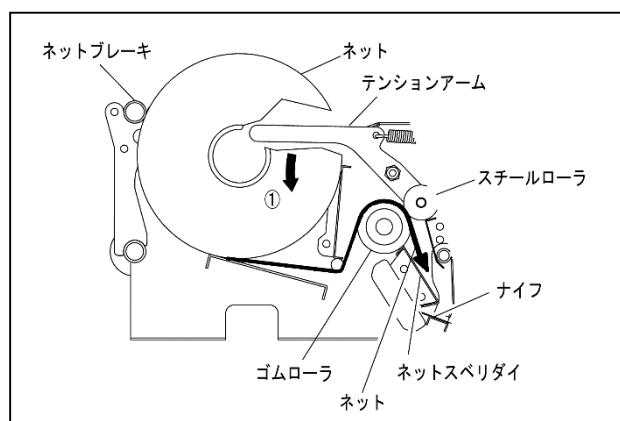
運転に必要な装置の取扱い



◆ネットを通す

下図のようにテンションアームを①の方向に押し下げ、ネットを束にしてゴムローラとスチールローラの間にネットを通し、80mmほど垂らしてください。

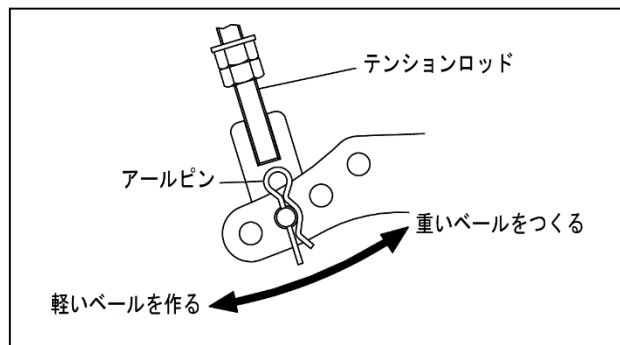
- ネットは自動的に広がりますので通した後に広げる必要はありません。



4. 梱包圧の調整のしかた

◆ベールの重さ調整

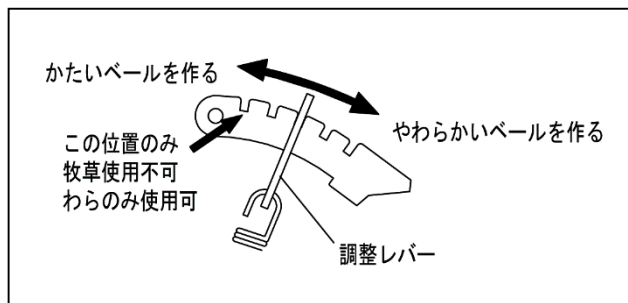
下図のアールピンを外し、テンションロッドの位置を変更してください。
調整する場合はチャンバーを全開にし、セフティフックを掛けてから行ってください。



◆ベールの固さ調整

下図の調整レバーの位置を変更してください。

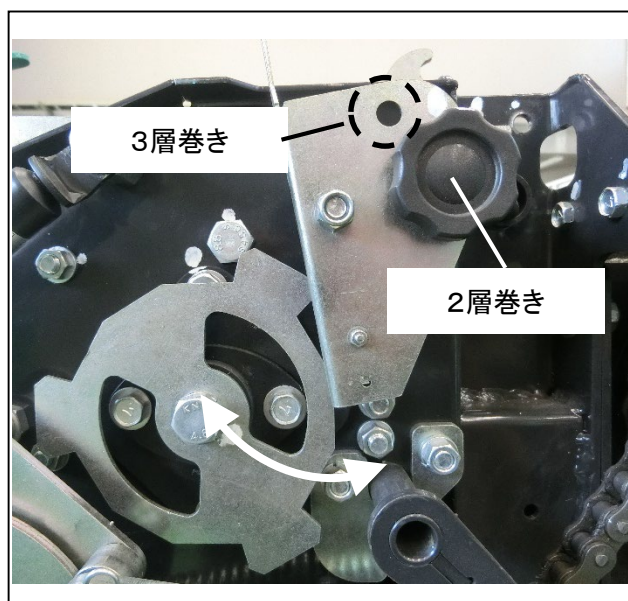
最も外側の位置は、牧草では機械を破損するおそれがありますので、使用しないでください。



5. ネット巻き数変更のしかた

◆ネットの巻き数の変更

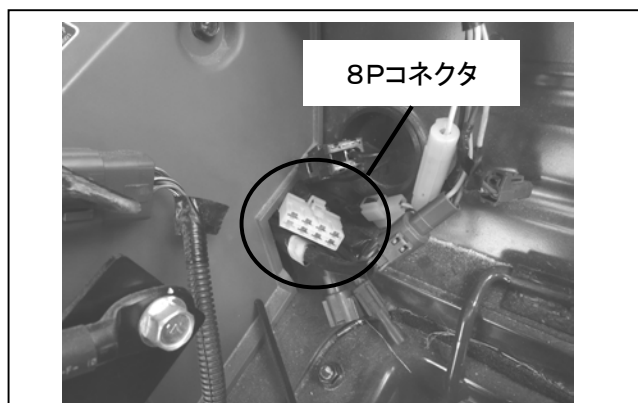
丸で囲まれているノブボルトを外し、点線で囲まれている穴の下にタカナットが来るように金具をずらしてノブボルトを締めることで、巻き数を変更することができます。次の写真の状態では2層巻き、点線で囲まれている穴にノブボルトを締めた状態にすると3層巻きとなります。



運転に必要な装置の取扱い

6. テールランプの確認

ハーネスの8Pコネクタをトラクタの灯火装置用コネクタに接続し、ランプが正常に点灯することを確認してください。



注意

コネクタの形状が異なる場合は、付属の簡易変換ハーネスを使用してください。

⚠ 警告

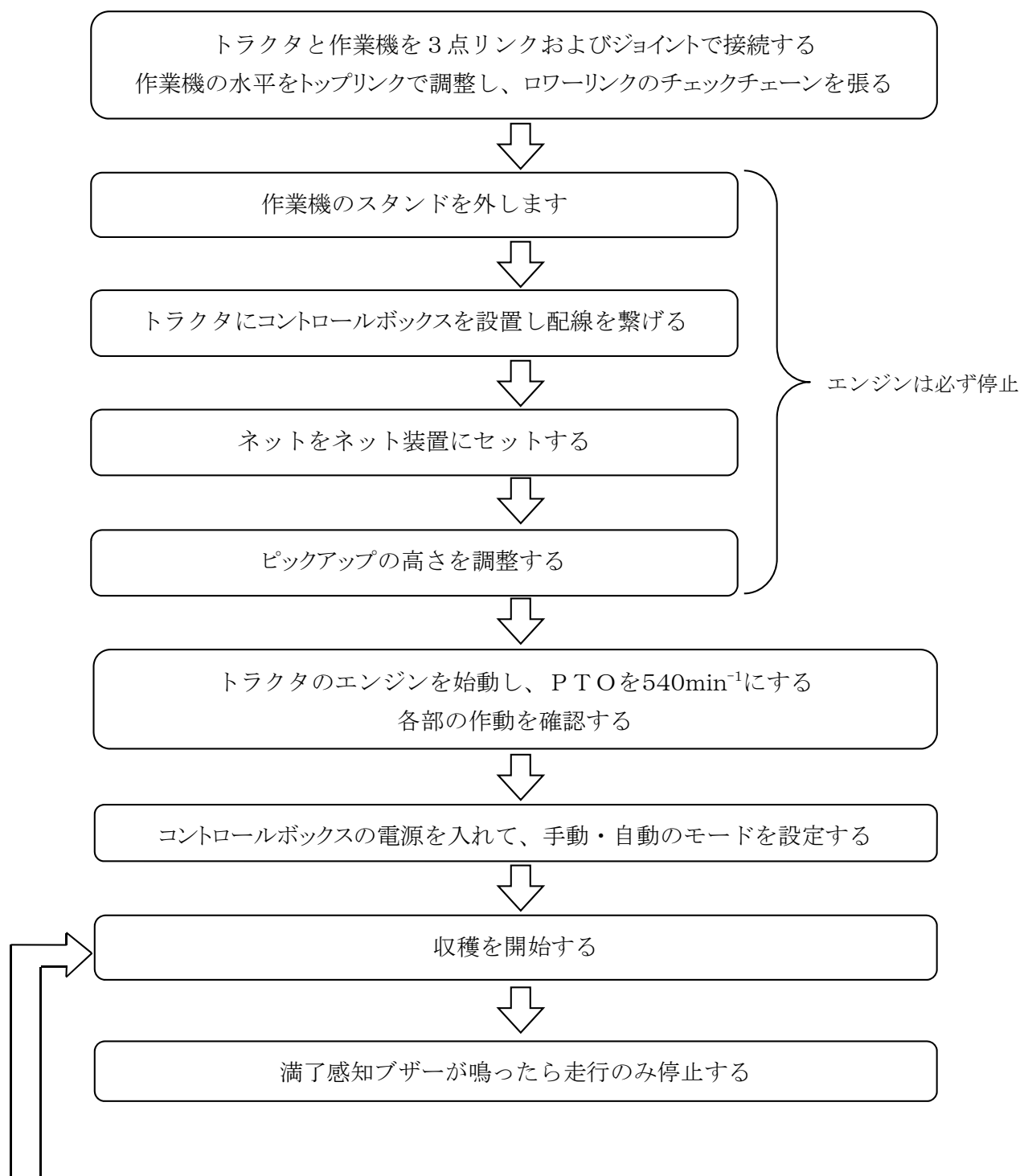
コードに傷がつくと正常な点灯が行われず、思わぬ事故をおこすおそれがあります。

作業方法

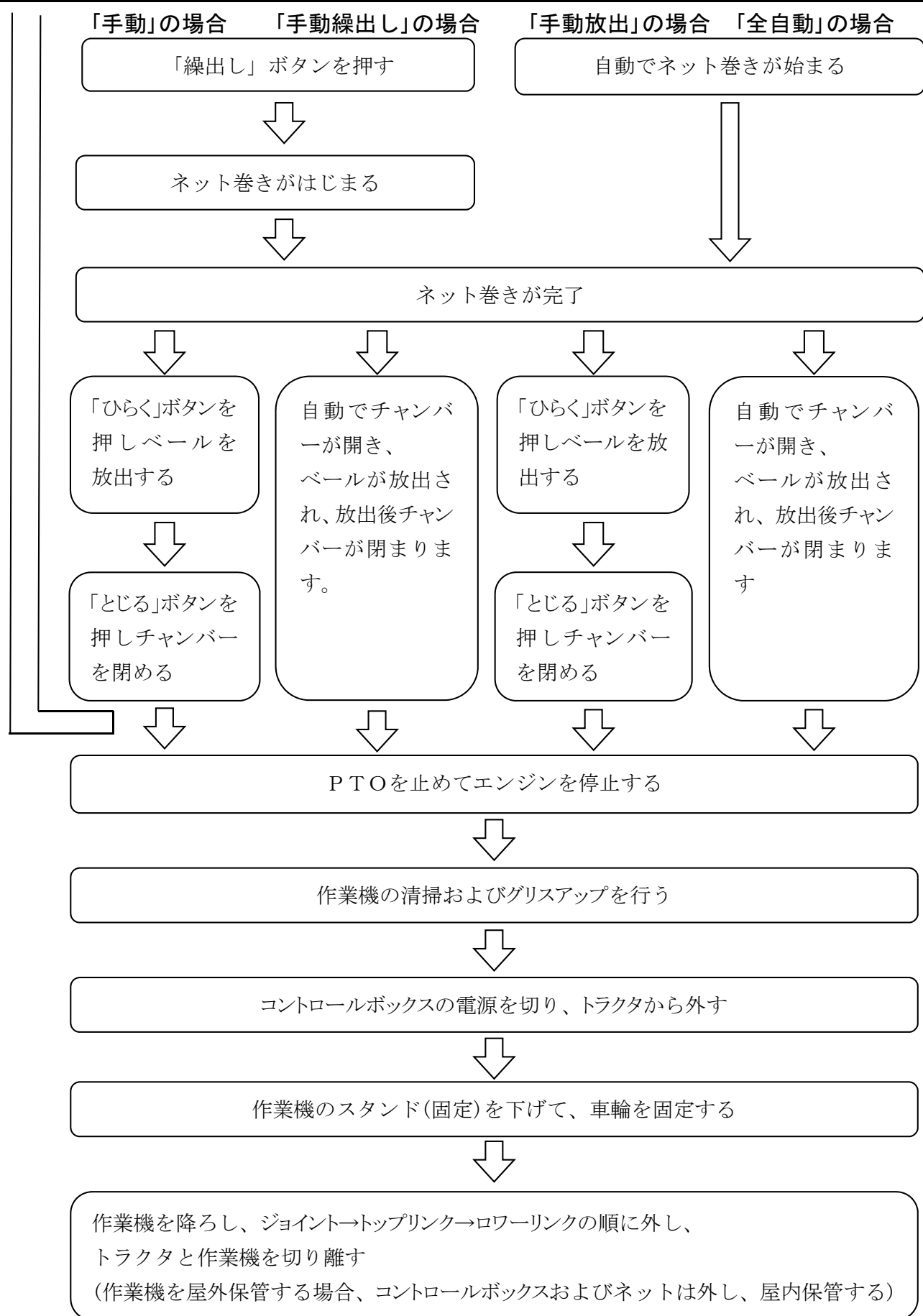
1. 作業手順と要点

⚠ 注意

コントロールボックスの電源が入っている場合は、コントロールボックスやリモコンのボタンを押すと動作します。機械に近づく際は、必ずPTOを切りトラクタのエンジンを停止してください。



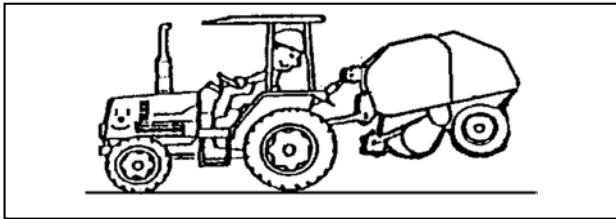
作業方法



作業方法

2. 移動・急旋回のときは

移動するときや、ほ場での急旋回の場合は、必ず本機を3点リンケージで吊り上げてください。



注意

本機を3点リンケージで吊り上げずに急旋回しますと、感知用リミットスイッチが異常作動し結束しない場合があります、故障の原因となります。

特に片ブレーキによる急旋回は絶対に行わないでください。

！ 警告

- ①本機を装着しての運転は、道路および周りの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進・急ブレーキ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

3. ピックアップドラムの高さ調整

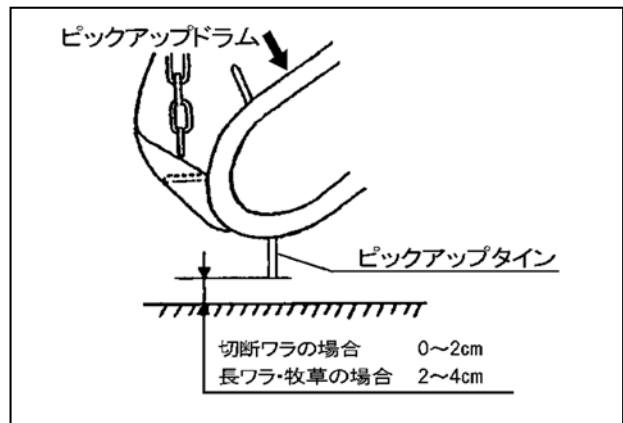
◆拾い上げ高さ調整

ピックアップドラムの拾い上げ高さの調整は、トラクタのトップリンク長さおよびピックアップのチェーンで行います。

◆拾い上げる作物の長さによって

高さが異なります

切断ワラ等の短いものを拾い上げる時はタイヤが地面に接する程度に、長ワラや長い牧草を拾い上げる時は、タイヤが浮き気味になる程度に調整してください。

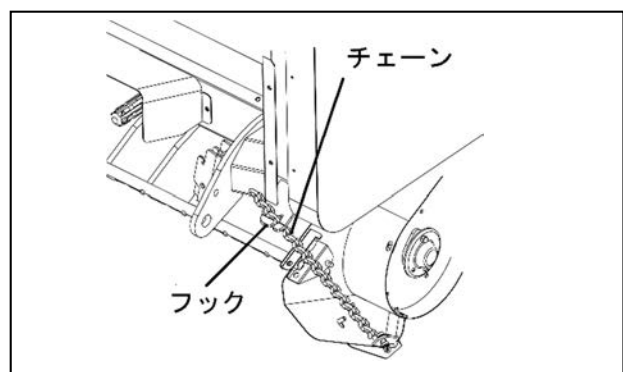


◆あぜ越えなどのとき

あぜ越えなどでピックアップドラムを上げるときは、左右のピック吊りチェーンで左右とも同じ高さになるように吊り上げてください。

◆ピックアップドラムの上下

ピックアップドラムを上下させるときは、次のようにフレームのフックにチェーンを掛けて高さを調整してください。



！ 警告

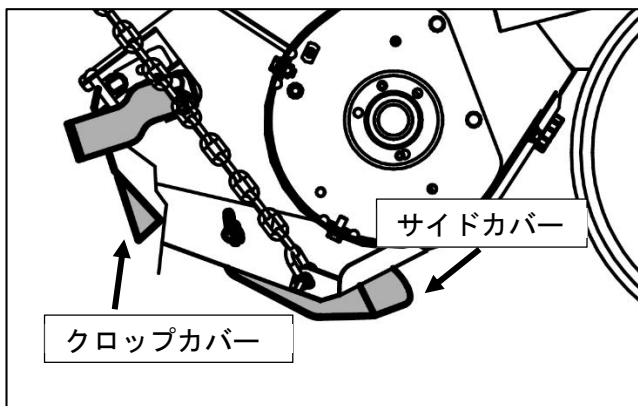
- ①ピック吊りチェーンで高さを調整するときは、平坦な所で本機を地面に降ろしPTOを止め、エンジンを停止してから行ってください。
- ②あぜ越えは十分な安全を確認し、あぜに対して直角に最低速で走行してください。

作業方法

4. 牧草の拾い上げ方法

◆クロップカバー・サイドカバー取外し

牧草の拾い上げ梱包時はクロップカバーとサイドカバーを外してください。

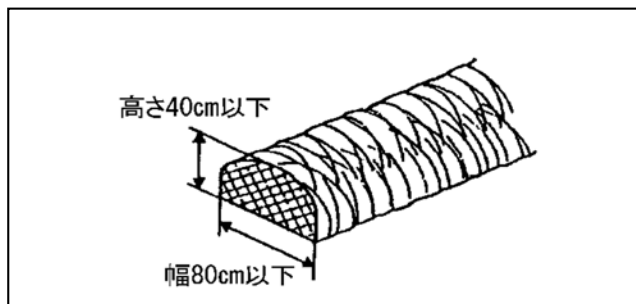


◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、下図に示す大きさに、できるだけ均一なウインドローとしてください。



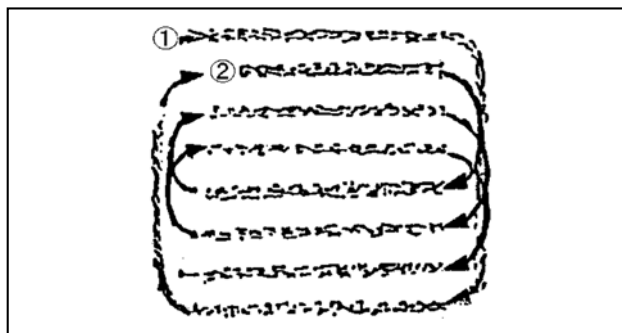
注意

ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業してください。

◆ウインドローの梱包作業

走行はウインドローの中心を走行し、旋回は大きく旋回してください。(右上図参照) 急旋回するときは、必ず3点リンケージで本機を上げ旋回してください。



5. 切断ワラの拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり、拾い残しも少なくなります。

(ウインドローの大きさおよび梱包作業は、前項の「牧草の拾い上げ方法」を参考にしてください。)

6. 長ワラの拾い上げ方法

◆クロップカバー・サイドカバー取り外し

長ワラの拾い上げ梱包時には、クロップカバーとサイドカバーを外してください。

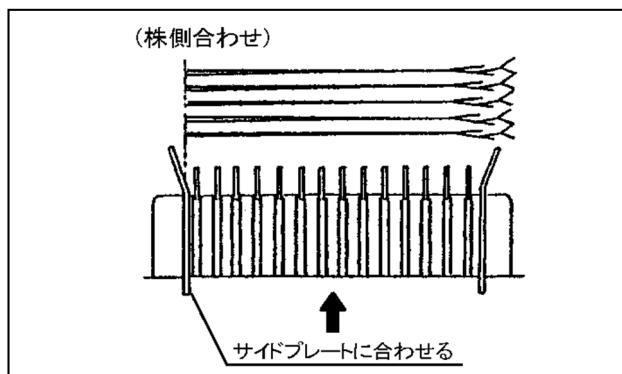
コンバインの刈取条数により、拾い上げ作業のポイントが異なります。

下記のポイントを守って作業してください。

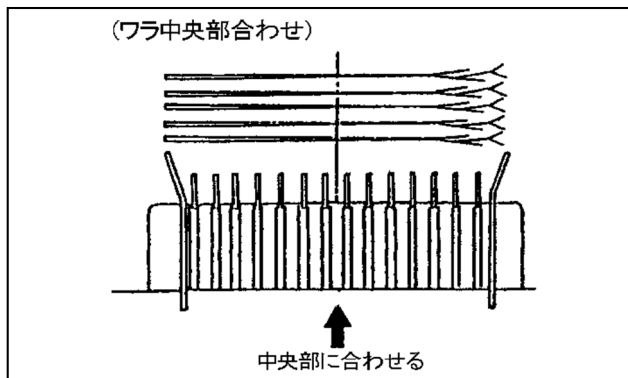
◆2～4条刈コンバインの長ワラ

たれ流しのときは

長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行するか、長ワラの中央部を中心に走行してください。



作業方法



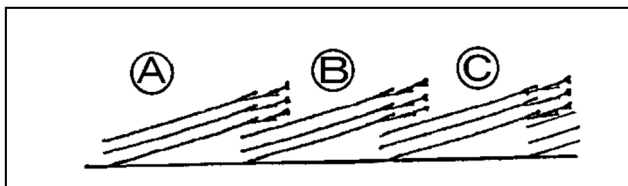
注意

穂先をサイドプレートに合わせると、詰まりの原因となります。

◆2条刈りコンバインの長ワラ

たれ流しのときは

刈取後のワラは重なった状態となっています。下図A, B, Cの順序で拾い上げてください。



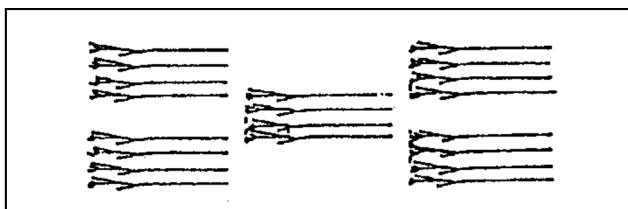
注意

A, Bを同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

また、ワラの長さが80cm以上のときは、AとBの重なりが多くなるため、Bのワラを引きずり込みます。これが原因で詰まりが発生しますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

◆長ワラのドロッパー落としのときは

この場合は、必ずウインドローを作ってから拾い上げてください。



7. 飲み込みが悪いときは

収量の多い飼料稲や長い草等で飲み込みが悪いときは、長ワラの拾い上げ梱包時と同様に、クロップカバーとサイドカバーを外してください。そして、付属のプレスバーブラケットを取り付けてください。

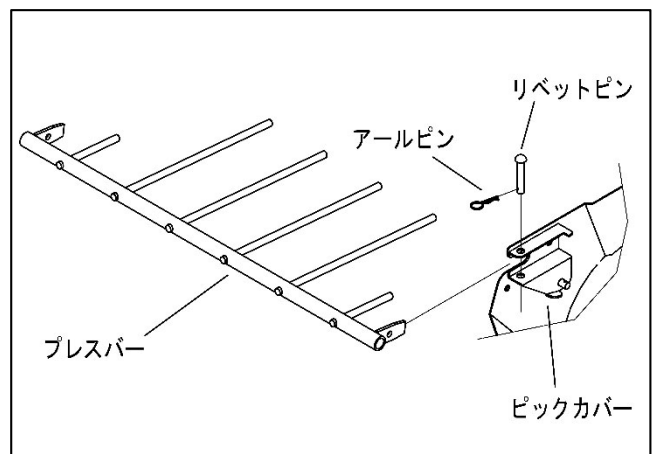
注意

クロップカバーとプレスバーブラケットは、併用できません。

◆プレスバーブラケット取付け

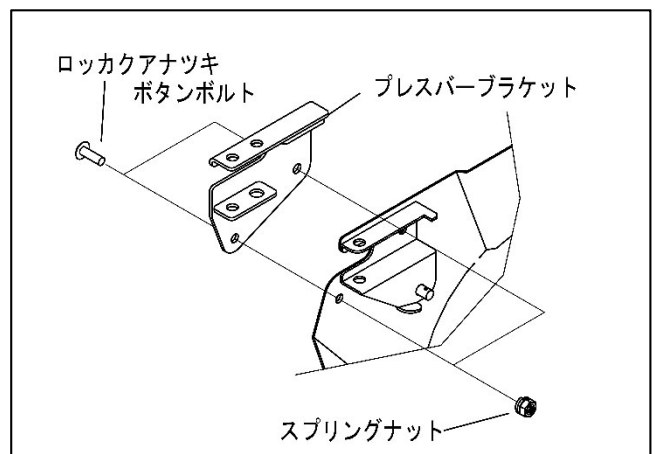
①リベットピンからアールピンを抜き、プレスバーを外します。

リベットピンおよびアールピンは再利用します。



②プレスバーブラケットを下図のように、内側から取り付けます。

ロックアナツキボタンボルト M8×25とスプリングナット M8で固定します。

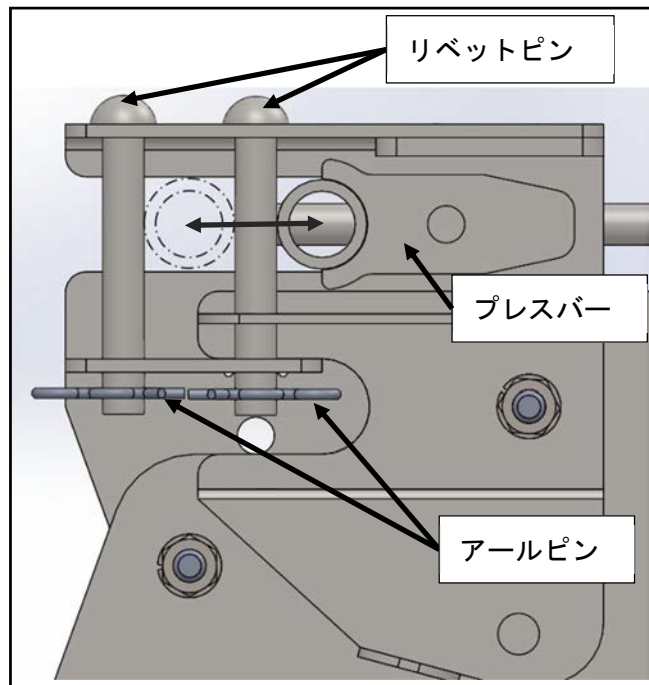


作業方法

③プレスバーを取付けます。

プレスバーを差し込み、リベットピンとアールピンで固定します。

作業状況に応じてプレスバーの位置を前後してください。



◆タイヤで作物を踏んでしまうときは

飼料稲、長い草等で作業している際、ローラー部のタイヤで作物を踏み、拾い上げの妨げになるときは、ローリングの操作により、タイヤを地面から少し浮かせて作業してください。

8. PTOの回転速度

この機械で作業するときのPTO回転速度は 540min^{-1} です。

これ以上の回転数での作業は故障の原因となりますので、作業しないでください。

9. 梱包作業方法のまとめ

◆ベールが回転するまでの低速走行

拾い上げた作物が、チャンバー内で回転するまでは、低速($1\sim 3\text{km/h}$)で走行し、ベールが回転すると拾い上げる作物に合わせて $3\sim 5\text{km/h}$ で走行してください。

また、拾い上げる作物の水分が多いときは通常より速度を下げた作業してください。

注意

始めから速度を速くすると、詰まりの原因となります。

10. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回するときは速度を落として、急ハンドルを切らないでください。

警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服等が巻き込まれるおそれがあります。
- 点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照 ページ	チェック
1	コントロールボックス	電源ランプ点灯確認	25	
2	ピックアップドラムの草等の巻き付き	草・トワイン巻き付きを除去	—	
3	ピックアップドラムのタイン折れ・曲がり	補充または修理	—	
4	パッケージチェーンの張り調整	たわみ量 3mm	37	
5	駆動チェーンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	37	
6	中間チェーンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	37	
7	パッケージ給油	油圧オイル補充	37	
8	予備シェアボルト	不足のときは補充	38 39	
9	タイヤ	空気圧不足のときは空気補充 (2kg/cm ²)	40	
10	その他各部注油・グリース	各部への給油参照	40	
11	テールランプ	各ランプの点灯確認	19 29	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

注意

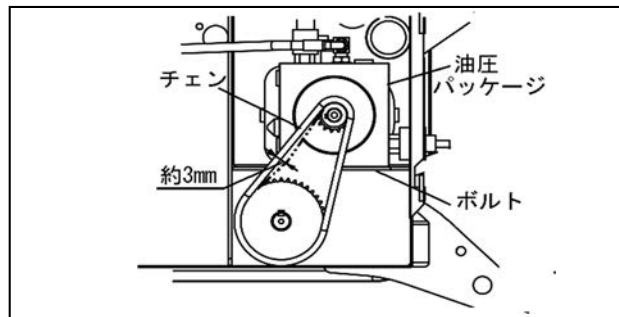
チェーンは特に初期伸びをします。
初めての使用から10時間経過後は、下記に従って、張り調整を行ってください。

警告

- ①チェーンの張り調整や、各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- ②取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

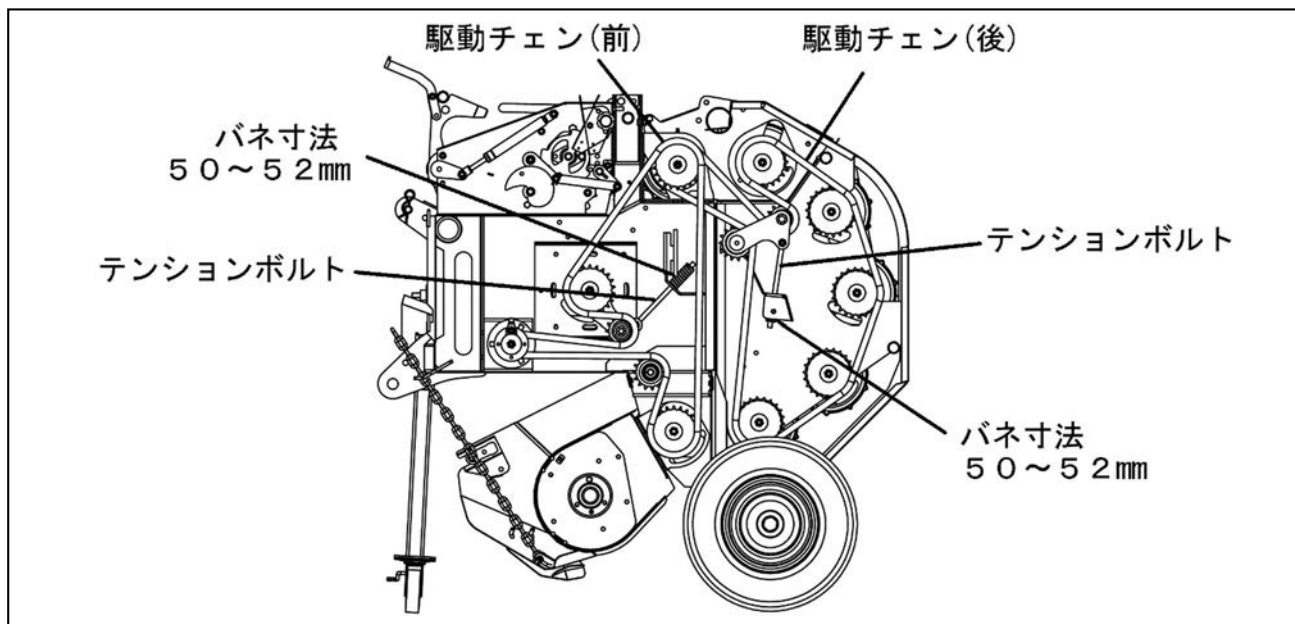
1. 油圧パッケージチェーンの張り調整

指で押したときのたわみ量が、約3mmになるように、パッケージ締め付けボルトを緩め、パッケージを横に押して締め付けてください。



2. 駆動チェーンの張り調整(前・後)

テンションボルトのナットを緩め、バネの寸法が50～52mm になるように調整してください。



3. ピックアップチェーンの張り調整

オートテンションのため調整の必要はありません。

4. 油圧パッケージの点検

点検、補給はエンジン始動前に行ってください。
不足している場合は、適時補給してください。

油はJIS K 2213 添加タービン1号または2号相当品をご使用ください。

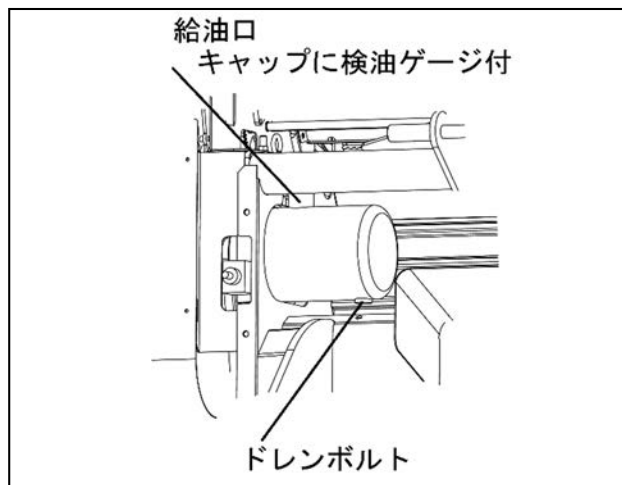
ISO VG46 タンク容量 1.6ℓ

注意

- 不燃性作動油は使用できません。
- 寒冷地では耐寒性作動油をご使用ください。
- 工場出荷時はシェルテラスオイル46を使用しています。

簡単な手入れと処置

- 長時間連続作業を行った場合、油温上昇のため油圧効率が悪くなり、動作が遅くなることがあります。その場合、作業を止めて油温を下げると元に復帰します。



5. シェアボルトの交換

◆シェアボルト式安全装置と装備

駆動軸とピックアップ軸の2ヶ所は、過負荷がかかった時、ボルトがせん断されて本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズは

2ヶ所とも同じです

ボルト M6×16(8T)ゼンネジ

注 意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

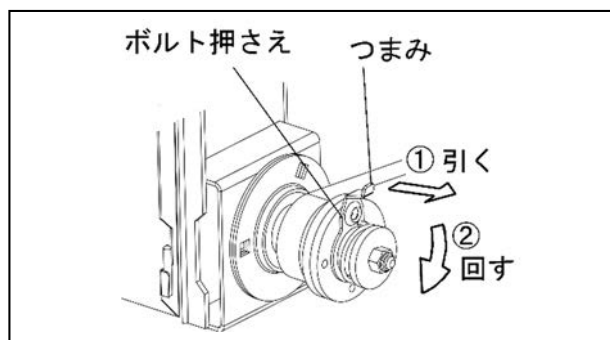
◆ボルトがせん断されたら

交換してください

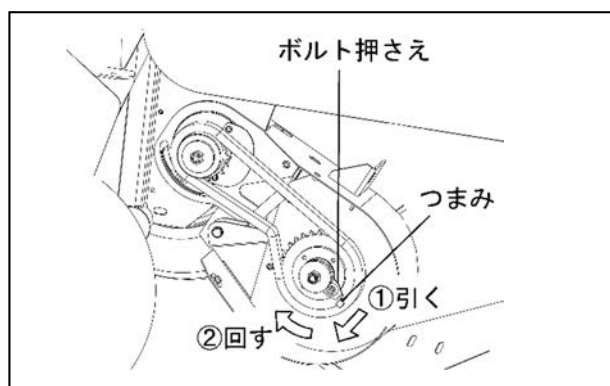
つまみを持ってボルト押さえを回転させ、せん断されたボルトを除去し、シェアホイルの穴位置を合わせて新しいシェアボルトに交換してください。

交換後はボルト押さえでシェアボルトの頭を押さえてください。

◆駆動軸シェアボルト



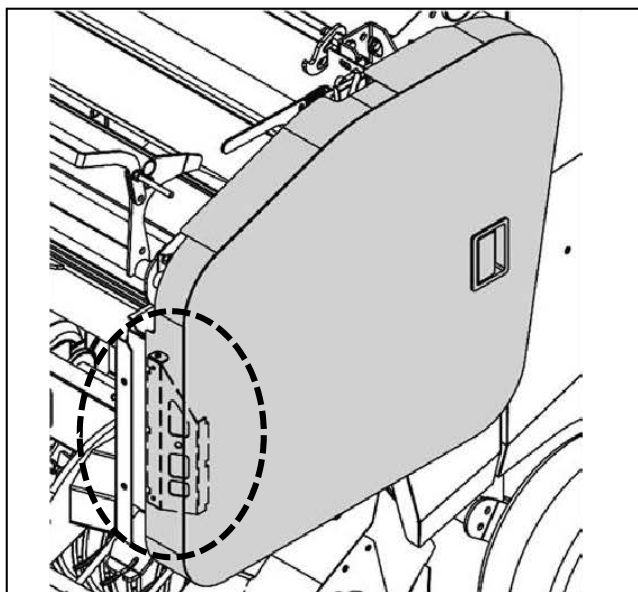
◆ピックアップ軸シェアボルト



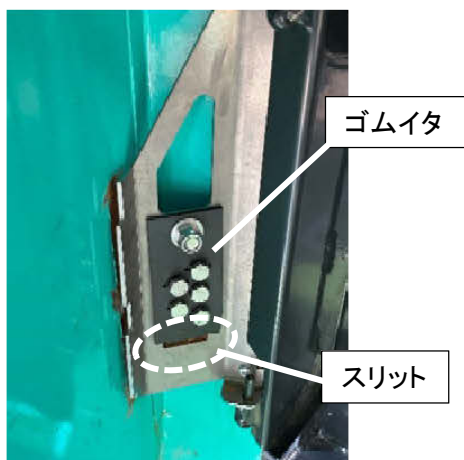
簡単な手入れと処置

◆予備シェアボルトの収納

進行方向左側のフロントカバーの裏側には予備のシェアボルトを収納するゴムイタがあります。



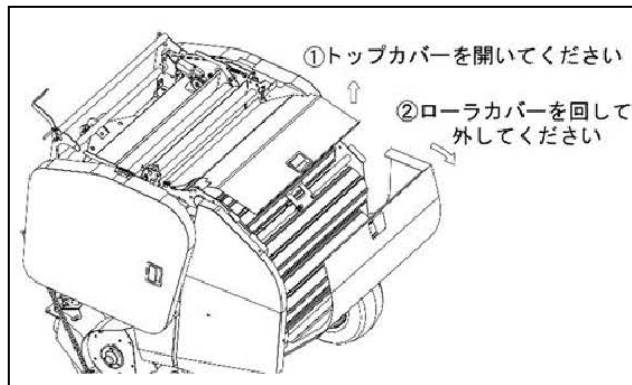
スリットからゴムイタを引き抜いて持ち上げ、シェアボルトを取出して使用してください。



6. ローラの掃除

ローラに泥等が付着したまま作業するとチャンバー内でベールが回転しない等の不具合が発生することがあるため、ローラに付着した泥等は取り除いてください。

リヤのローラは下図の要領でカバーを開けることで簡単に掃除できます。



⚠ 警告

ローラの掃除をするときにはPTOを切りエンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。

簡単な手入れと処置

7. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧

本機の装着のタイヤは、チューブレスタイヤを装備しています。

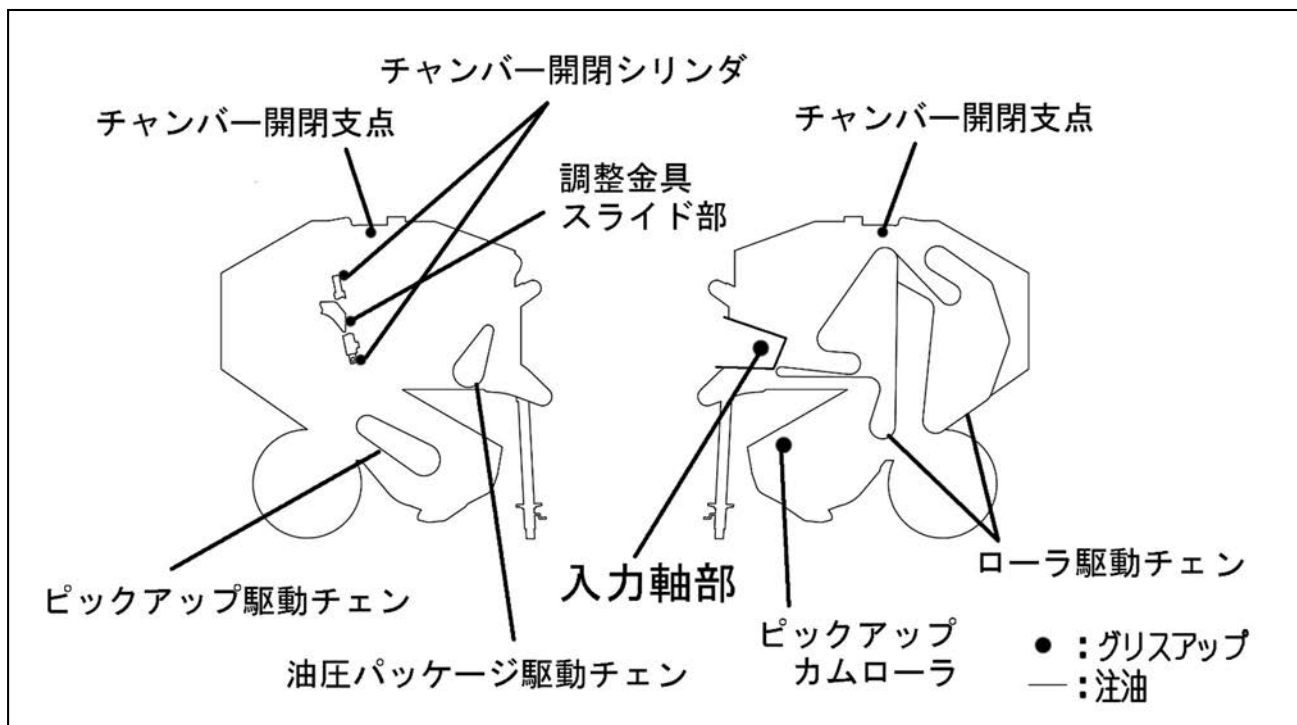
空気圧は下記の通りです。定期的に空気圧を点検してください。

常圧タイヤ内圧	2.0kg/cm ² 以下
リム組み時内圧	3.0kg/cm ² 以下

警告

- ①タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず歯止めをしてから行ってください。
- ②タイヤおよびホイールに関する修理は、十分な設備をもつタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。

8. 各部への給油



9. (長期) 格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥や埃等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転部やチェン類には十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。

- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときは締めてください。
- 格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。
- 格納時は、キャスターのブレーキをかけてください。

簡単な手入れと処置

10. センサの調整

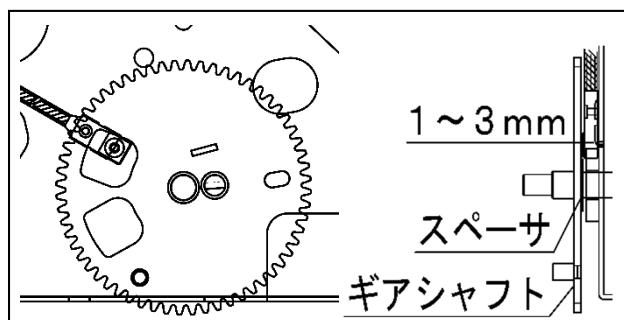
⚠ 警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止め、エンジンを停止した状態で行ってください。

※各センサの位置は(P. 20)を参照してください。

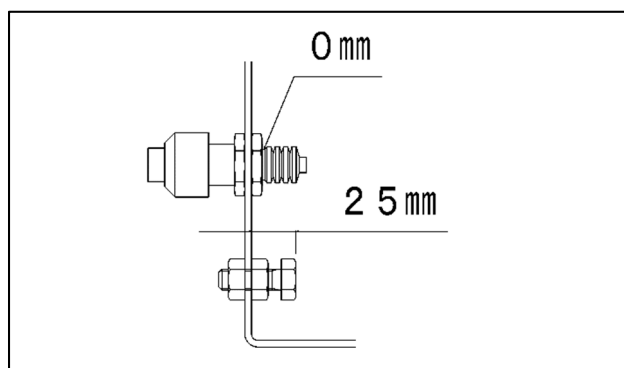
◆カムセンサ

- ①カムセンサを下図の位置で固定してください。
- ②スペーサでセンサ、ギアシャフト間の距離が1～3mmになるように調整してください。



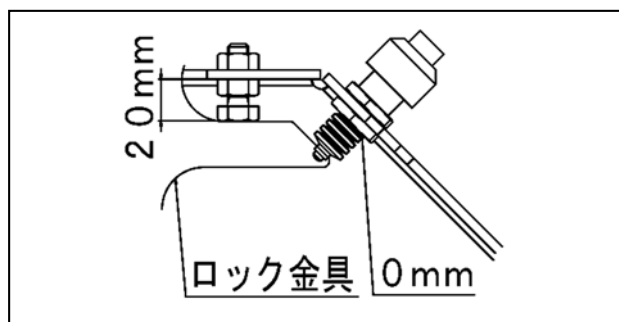
◆満了感知スイッチ

- ①ロック金具の押しボルトをボルトの頭が25mm出ている位置で固定してください。
- ②感知スイッチを最大まで引いてネジ山の端とナットの上面を合わせた位置で感知スイッチを固定してください。



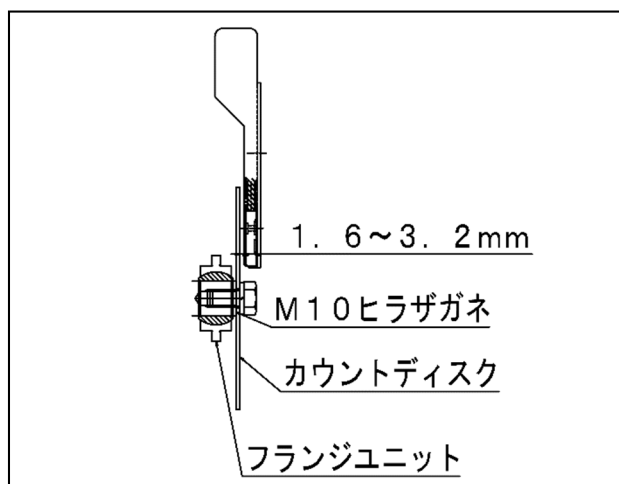
◆チャンバー閉スイッチ

- ①ロック金具の押しボルトをボルトの頭が20mm出ている位置で固定してください。
- ②チャンバー閉スイッチを最大まで引いてネジ山の端とナットの上面を合わせた位置で、チャンバー閉スイッチを固定してください。



◆ネットカウントセンサ

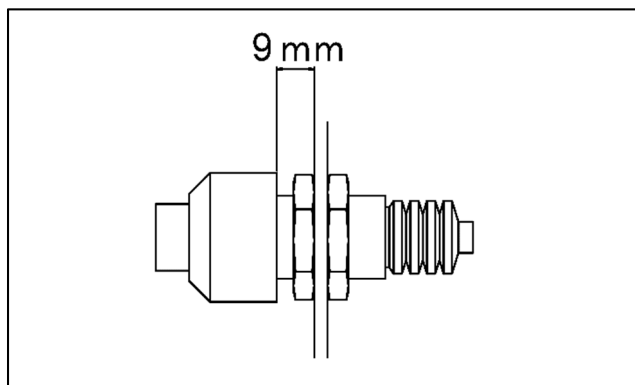
- ①カウントディスクを固定しているボルトを外し、センサ、カウントディスク間にM10のヒラザガネを入れます。
- ②センサ、カウントディスク間にM10のヒラザガネを入れるかどうかで、センサ、カウントディスク間の距離を1.6mm～3.2mmに調整してください。



簡単な手入れと処置

◆キッカースイッチ

- ①下の図のようにキッカースイッチとフロントケースの間に9mmとしてください。



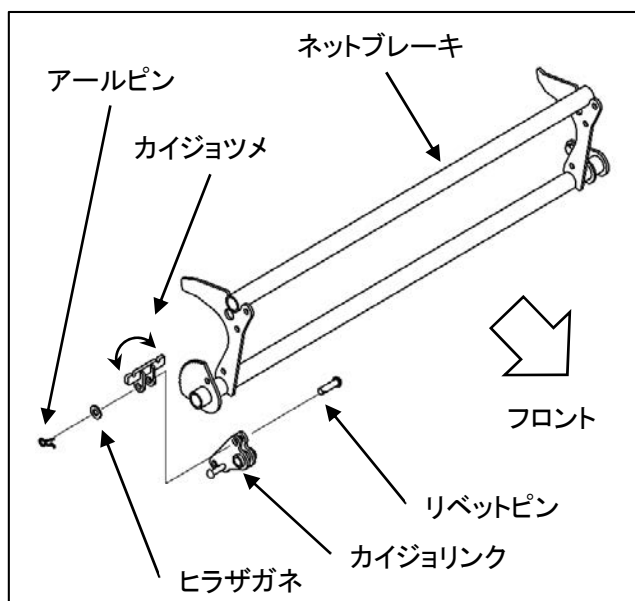
1 1. ネットブレーキ部の交換

◆カイジョツメ交換

カイジョツメが摩耗してきたら左右反転して使用してください。
アールピン、リベットピンを外すと、カイジョツメが外せます。
両側摩耗したら、部品交換してください。

カイジョツメ

コードNo 44124 4260 020



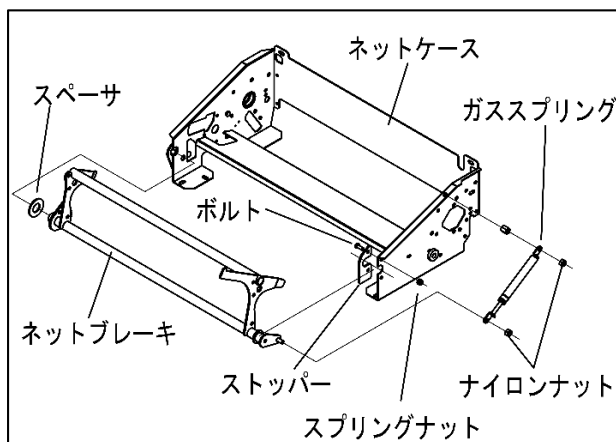
◆ネットブレーキ交換

ネットブレーキのカイジョツメ作用部が摩耗してきたら、部品を交換してください。
ナイロンナットM10を2か所外し、ガススプリングを外します。

次に、ボルトM8×20(8T)とスプリングナットM8をゆるめストッパーを外すと、ネットブレーキが外せます。

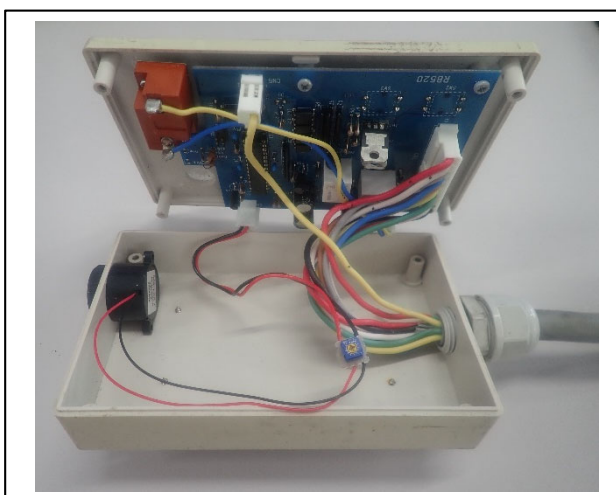
ネットブレーキ

コードNo 47162 4310 001



1 2. ブザー音量の調節の仕方

コントロールボックス内部にブザー音量の調節ダイヤルを装備しています。(31号機～)



プラスドライバーでダイヤルを調節してください。時計回りにダイヤルを回すと音量が大きくなります。出荷時は中間位置になっています。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
● 拾い上げ部に草が つまる	● 集草列が大きすぎる ● 車速が速すぎる ● 作物が濡れている ● 飲み込みが悪い ● 作物が長く、タイヤで踏んで 拾い上げの妨げになっている	● 集草列を小さくする ● 車速を落として作業する ● 予乾をする ● プレスバーブラケットを取付 ける ● タイヤを地面から少し浮か す	33 35 — 34 35 35
● テーパー状のベールが できる	● 集草列の片側を走行している	● 集草列の中央を走行する	—
● ベールが回転しない	● ローラに泥が付着している	● ローラの泥を排除する	39
● ローラおよびピックアップ ドラムが回転しない	● 駆動軸のシェアボルトが切断 している	● シェアボルトを交換する コード No 011185060160 (M6×16 8T 全ネジ)	38 39
● ピックアップドラムが回転 しない	● ピックアップ軸のシェアボルト が切断している	● シェアボルトを交換する コード No 011185060160 (M6×16 8T 全ネジ)	38 39
● チャンバーが開閉しない	● セフティフックが作用している	● セフティフックを解除する	24
● チャンバー内がいつぱ いになってもブザーが鳴 らず、繰り出しモータも 回らない	● 電源ランプが点灯しない ● トワイン案内金具が所定の位 置にない ● 満了感知用スイッチが故障し ている	● 電源コード(バッテリー側)のヒ ューズを確認する(15A) ● コードの差込みを確認する ● スwitchを交換する	25 22 22 20 41
● ネットブレーキが効かな い	● ネットブレーキ、カイジョツメ が摩耗している	● カイジョツメを左右反転して 組替える ● 部品を交換する コード No 471624310001 (ネットブレーキ) コード No 441244260020 (カイジョツメ)	42 42

付 表

1. 主要諸元

名	称	ミニロールベアラ
型	式	RB-521RN
装	着 方 法	3点リンク直装式
駆	動 方 法	PTO駆動 (回転速度 540min ⁻¹ (rpm))
適	応 ト ラ ク タ	12.5～22.1kW (17～30PS)
機 体 寸 法	全 長	1250mm
	全 幅	1230mm
	全 高	1320mm
質	量	410kg
作	業 幅	80cm
ベ	ー ル 寸 法	φ 50×68cm
ベ	ー ル 重 量	15～20kg
チ	ャ ン バ ー 開 閉	油圧パッケージ内蔵により油圧開閉
使	用 可 能 ネ ッ ト	ネット芯幅710～770mm
タ	イ ヤ サ イ ズ	16×6.50-8 4PR
作	業 速 度	3～5km/h
作	業 能 率	20～30分/10a

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

※質量はジョイント・スタンド装着時の数値です。

※ベール重量は作物の水分により変動します。

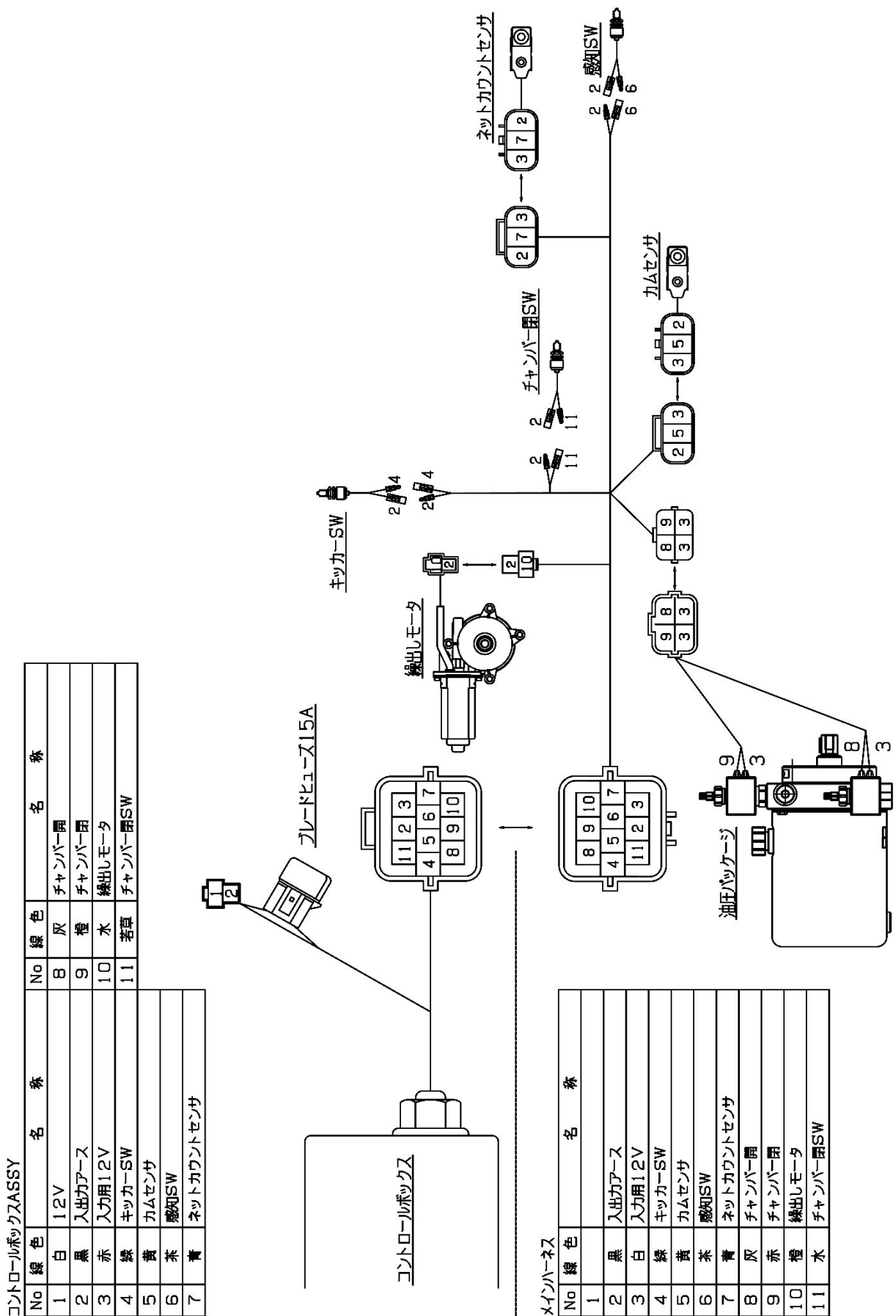
2. 主な消耗部品

部 品 名 称	部 品 コ ー ド
ブレードヒューズ15A	00900 0200 150
シェアボルトM6×16 8T 全ネジ	01118 5060 160
タイン	11659 5173 006

付 表

3. 配線図

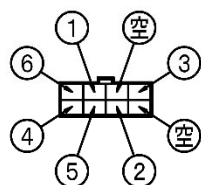
◆メインハーネス



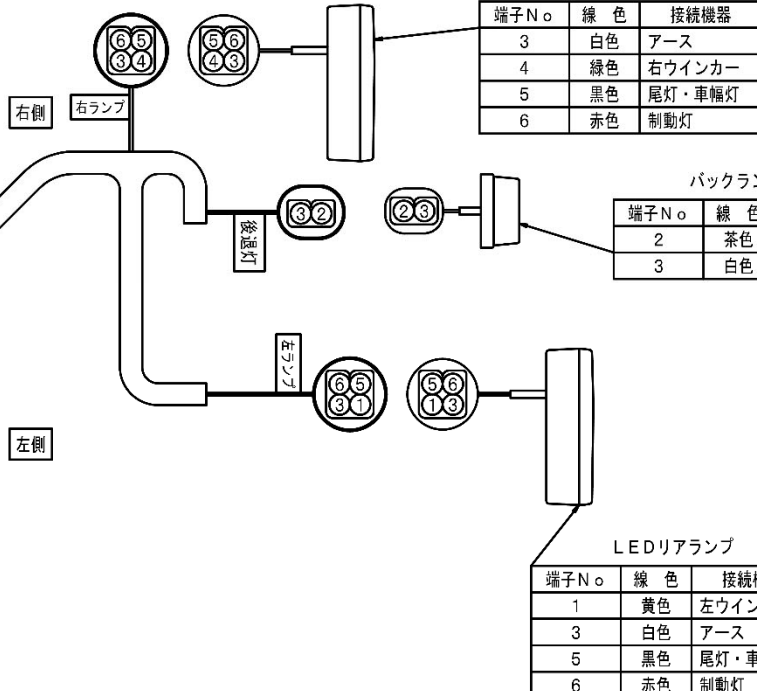
付 表

◆テールランプ

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯



正面から見る



LEDリアランプ

端子No.	線 色	接続機器
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

バックランプ

端子No.	線 色	接続機器
2	茶色	後退灯
3	白色	アース

LEDリアランプ

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
3	白色	アース
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

◆変換ハーネス

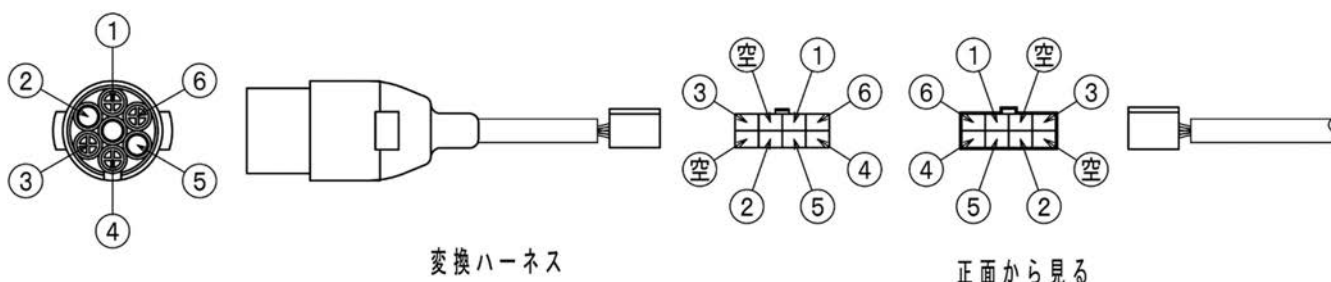
トラクタ側の灯火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタ(CN8極コネクタ)ではなく、DIN規格品(7PDINソケット)の場合変換ハーネスを取り付けてください。

以下の図のように変換ハーネスを取り付けてください。

ハーネスは必要に応じてリピータイで固定してください。

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯



変換ハーネス

正面から見る